

第一回

朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える

全国交流集会報告集

とき 一九九〇年八月二六日(土)～二七日(日)
ところ 名古屋市熱田区役所ホール
名古屋働く人の家





まへがき

第一回「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会」が8月25、26日の両日にわたって開かれた。南は九州から北は北海道まで全国23都道府県から47団体、約三百名が参加しました。

マスコミに注目を浴びながらも、初めて開かれるということもあって期待と不安が入り混じった、真剣なまなざしのなかで始まりました。各地からの地道な活動報告と紹介が行われた後、日本政府に対する要望書を採択しました。夜には「調査・研究」、「保存」、「戦後補償」のテーマで分科会を行いました。そして、翌日は現存する地下壕のなかで最大規模を誇る岐阜県可児市久々利の地下軍需工場跡を調査しました。

特にここで書いておきたいことは、実に様々な人々が想像や立場を越えて集会に参加したことです。強制連行・強制労働の実態をこのまま歴史の闇に葬り去ってはならないという切実な思いが、このような形に実ったのだと思います。

今後、「全国交流集会」を発展させ、ネットワーク作りに寄与することを願い、報告集を作成する運びとなりました。

要請文

日本国内閣総理大臣 海部俊樹殿

私たちは先の大戦中、日本を始め中国東北部（満州）・樺太・南洋群島等へ強制連行された朝鮮人・中国人の苦闘の跡をたずね、日本の侵略の歴史的責任を追求する団体・個人の幅広い集まりを持ちました。

韓国政府の要請をうけた日本政府は、強制連行した朝鮮人の名簿を八月七日に発表しました。それは最終的な調査結果であるといいつつ、わずか七万余人足らずの名簿でしかありません。この間の民間に於ける調査・研究から推しても実に欺瞞的な数字であることは明白であります。

日本の敗戦後四十五年、日本政府は終始一貫朝鮮人・中国人強制連行の史実を明らかにすべく努力したことは一度もなく、今日に至るまでその事実を闇の彼方に押しやる努力に汲々としている次第です。

そもそもこれら強制連行された朝鮮人・中国人は日本政府の閣議決定に基づき、日本の法の強制力の下に組み込まれたのです。

日本政府の用語から見ても、産業報国隊から徴用工へと変遷しているように、彼らは精神的にも肉体的にもふみにじられ、おびただしい犠牲者をも出しているのです。

にもかかわらず半世紀になろうとする今日に至っても尚、欺瞞策で逃れようとするのは犯罪に犯罪を重ねる行為以外の何物でもありません。私たちは断じて承服するわけにはまいりません。世界が注目する現情勢をふまえ、率直に非を非と認める為にも、先ずは誠実なる姿勢で調査を続行されるよう、次の三点を強く要請します。

- 一 日本政府は度重なる欺瞞政策を止め、政府の責任において真剣に調査すること。
- 一 史実に基づいた公式謝罪をすること。
- 一 個々の犠牲者に対しすみやかに補償すること。

一九九〇年八月二十五日

第一回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会

参加者一同

目次

第一部

第二部

全体集会 報告

現地調査報告

あいさつ

本橋正男

4

各地域からの報告

6

相模湖ダムの歴史を記録する会

田中造雅

兵庫朝鮮関係研究会

洪祥進

高槻「タチソ」戦跡保存の会

宇津木秀甫

瀬戸地下軍需工場跡を保存する会

大矢昭夫

三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者（李基允・裴相度）の追悼碑

を建立する会

金静美

中国人強制連行を考える会

田中 宏

三分間アピール

田中 宏

閉会の挨拶

朴慶植

呼び掛け賛同団体からのメッセージ

朴慶植

呼び掛け賛同団体からのメッセージ

朴慶植

分科会 報告

49

資料

54

参加者の感想

50

- ① 呼び掛け文
- ② 新聞記事
- ③ 各団体住所録
- ④ 都道府県別参加者一覧

第一部

全主体集△云

報生口

開会の挨拶



ピットム
の会

本橋 正男

本日は大勢の方々がお集まりくださってありがとうございます。今日このようにして遠くの方々にもお会いすることができて本当に嬉しく思っています。私たち「ピットムの会」は、今年二月この地方の地下軍需工場の調査報告書を出版した後、全国の同じような活動をしているグループに呼びかけて通称「トンネル会議」というようなイメージで集会をもとうと準備をしてきました。その間に韓国、盧泰愚大統領が来日し、日本政府が朝鮮人強制連行者名簿を調査するという公約をしたので強制連行の問題がにわかに

クローズアップされ、私たちの思惑を越えて大きな広がりをもせた交流集会になりました。大げさな言い方になりますが、突然歴史のまったく中に放り出されたような戸惑いを感じています。

今回の全国交流集会がこのように注目を浴び、大きな集会になったのは単なる偶然や盧泰愚の来日のせいだけではないと思います。そのひとつの理由として、韓国や中国をはじめとしたアジア各地の民衆から、日本に対する戦争責任を追求する声や戦後補償を求める声が起っているということがあげられると思います。これはアジアの民主化を求める民衆が軍事独裁政権との闘いのなかで力をつけてきたということではないでしょうか。韓国の盧泰愚大統領に日本の侵略の歴史にけじめをつけさせ強制連行の問題に言及させたのも韓国民衆の力ではないかと思っています。

最近ドイツやソ連、アメリカなどでも歴史の転換期のなかで戦後処理をもう一度見直そうという動きも高まってきています。私たちの運動も今後の課題としてこうした流れの中でとらえる必要があるのではないかと思います。

戦後四五年、朝鮮人・韓国人にとって解放後四五年ということになりましたが、その間、日本政府と私たち日本人は侵略の歴史を隠し続け、忘れ去ろうとしてきました。特に強制連行・強制労働の事実ほど、今までに顧みられなかった事も少なくありません。強制連行された百数十万に及ぶ朝鮮人・中国人は日本の各地で最も過酷な労働に従事させ

られ多くの人たちが命を失っています。しかもこれらのことは私たちの住んでいるすぐそばで起っていたのです。だからこそ逆にこれらの事実は隠ぺいされ、あるいは歪められてきたのでしょう。これらの事実を明らかにし歪みを正していく以外に朝鮮人・中国人との共生も日本の国際化もあり得ないと思います。

日本政府は八月七日に約七万名の強制連行者名簿を公表し、これだけで調査の終息宣言をしました。これは強制連行された人数の一割にも満たないものです。まだまだ多くの名簿や資料が各省庁や自治体、企業に隠されているのは確実です。これらの調査をもとに強制連行・強制労働の実態を明らかにしていかなければならないと思います。

今日の集会では各地域で活動しているいろいろなグループからできるだけ多くの発言をしていただきたいと思います。そうすることで日本人や朝鮮人、中国人のさまざまな思いや、強制連行・強制労働の抱えている問題を浮かび上げることができると思っています。どうぞよろしく願います。簡単ですが主催者の挨拶にかえさせていただきます。

各地域からの報告

「相模湖ダムの歴史を記録する会」



田中 造雅

この会は一九七六年にできました。メンバーは地元の自営業の人や公務員、教員など七、八名です。

相模湖ダムといっても関西の方などにはお分かりにくいと思いますが、関東平野がいちばん西に入った山の中です。この相模湖ダムは強制連行の労働によって出来上がったものですが、私たちの運動のきっかけとなったのは工事の主体が神奈川県であるにも関わらず県の方でこの事実を明確にしていなかったということです。県史や町史にも強制連行の事実が書かれてないので、地元に住む人間でこの事実を掘り起こしてみようということで聞き取り調査を始めました。

このダムは一九四〇年に着工されて一九四七年に一応完

成しています。ここは多目的ダムで発電、飲料水、農業用水を含めた大規模なダムでして非常に危険の大きい工事だっただろうと私たちは考えています。この元請けは熊谷組なんです。その下請け、孫請けで働いていた方々の聞き取りを中心にして掘り起こしてきたわけです。十年前にこの聞き取りを中心にとめた『相模湖ダムの歴史』という資料集を出しました。毎年一回、その後の聞き取りをつけて追悼会をきっかけにして発行しています。ですが、証言をいただいても具体的に犠牲者の数などはつかみきれないというのが現状です。分かっているのは中国人の犠牲者は二八名ということで、ほとんどが八路军の捕虜です。日本に来たのは二九二名となっていますが、途中船の中で亡くなったとして相模湖に来たのは二八七名のようにです。中国人死亡者は名前も原因も明らかになっていますが行方不明という形になってる人もいます。

当時の労働状況は部分的にしかわかりませんが、中国人は一カ所に集まって宿舎にいて、その隣は日本人の学徒動員で早稲田学院の学生が中心だったようです。食べ物のない時代に学生も犠牲者だったわけですが、中国人はより少なく、あまりにも差があつて辛い厳しい状況だったということを聞きました。また特高警察の人が五人宿舎にいて作業現場へ連れて行ったようですが、中国人労働者はいつも同じものを着ていて作業にいくときも裸足だったようです。昼食はまんどろ二つ程度の非常に貧しいものだったそ

うで、それも躰の調子が悪くて現場に行かなければ出ないという悲惨な状況で、栄養失調で皮膚病やおできができて毎日のように倒れるひとがいたそうです。別な証言では手かせをはめられていたということも聞いています。仕事はダムの砂利や砂の採集だったようです。

韓国・朝鮮人の犠牲者の数ははっきりしていませんが推定で一八名で、名前ははっきりしていません。県が作った慰霊塔がダムのそばにあるのですがそこには日本人のなかに日本名で名前が入っています。韓国・朝鮮人労働者は募集という形の強制連行と自由労働者というグループに分かれています。募集という形の強制連行はダムのすぐ横の丘に收容されていたようで、自由労働者の家族持ちの方は家族といっしょに住んでいたようです。強制連行の宿舎の方は非常に厳しい監視の下に置かれていたと聞いています。労働は厳しかったと思いますが、証言をしてくださる方も立場によってそれぞれ違いがありまして、私たちは主に日本人から証言を得ているのですが、当時、仕事に差はなかったといわれる方もおられますし、非常に厳しかったと言われる方もおられます。

県の資料「昭和一八年一月二七日相模河川水統制事業進捗概要」によりますと、あえて当時の言葉を使いますが、「内地人四割、半島人六割ノ就労ヲ得ラレルモノトス」と書かれています、少なく見積っても六割以上が強制連行による朝鮮人労働者だと推定できます。戦争も後半にな

りますと更に多くの朝鮮人労働者が連れてこられ、ほとんど日本人はいなかったんではないかというような証言も聞いていますので、推定の一八名ではすまないたぐさんの犠牲者がいただろうと思っています。日本人が四割なのに犠牲者が三四名ということは韓国・朝鮮人の犠牲者一八名では明らかに少ないと思います。当時大洪水があつて日本人が二名韓国人が四名犠牲性になつていたのですが、記録には日本人のことしが載っていないのです。これから考えてもはっきりしない犠牲者が多くいるだろうと考えるわけです。

日本人の証言では韓国・朝鮮人が反抗的だったとありますがそれは当然でしょう。それに対して「折檻」したという言葉を使っていましたけれど、非常に厳しい非人間的な労働が課せられていた様子が推測されるわけです。韓国・朝鮮人には韓国・朝鮮人の親方がつくという形だったようですが、場合によっては日本人の班といっしょだったようです。労働時間は、戦争が厳しくなつてくると早朝に宿舎を出て夕方遅く帰ってくるという厳しいもので、戦争後半には夜中まで働いたというようなことも聞いています。結局中国人が二八名、韓国・朝鮮人が推定一八名、日本人三四名、学徒動員が三名というのが現在つかんでいる事実です。

現在、私たちは証言集を出すのと並行して、相模湖ダムの建設殉職者の合同追悼会を県や相模湖町に呼びかけていっしょに開いています。今年で一二回目を迎えたのですが、

毎年七月の最終日曜日に相模湖の湖畔で開いています。残念ながら県はもうひとつ積極的とは私には感じられないです。追悼会を通じて、ぜひとも県に相模湖の歴史をきちっととらえ直してもらいたいと要求を出しています。また慰霊碑には日本人と韓国・朝鮮人の名前だけで中国人労働者の名前は出てないのでその加筆を要求しています。朝鮮人労働者で日本人名で書かれている人の本名も一部が分かっているのです。それを朝鮮名に直すことも要求していこうと思っています。

兵庫県の朝鮮人強制連行の調査と現状



「兵庫朝鮮関係研究会」

洪祥進

私たちは兵庫県在日二世・三世の研究団体です。七年ほど前から調査を始めて、まず朝鮮と日本の文化交流、一九一〇年前後から一九四五年までの在日朝鮮人の歴史、開放後の阪神教育闘争までをまとめて『兵庫と朝鮮人』という本を出しました。ところが兵庫県での強制連行の資料が出てきまして、鉾山を集中的にやろうということで『鉾山と朝鮮人強制連行』をまとめました。兵庫県だけの鉾山就是一冊の本になりました。三年ほど前にある工事現場から地下工場のトンネルが出てきて、その中に「朝鮮國獨立」という文字があったのです。それをまとめたのが『地下工場と朝鮮人強制連行』です。これは三年かかったのですが、そののあと書で私たちは中間的なまとめと書きましたが、これは別に私たちが謙虚だからこう書いたのではなく、とてもとても地下工場の問題は根が深い、まだまだたいへんな数字が出てくるだろうという感想を持ったからなのです。

強制労働者の数としては「一九四五年三月から八月までの延べ七五〇万人が地下航空機工場の疎開のために費やされた。この労働者の主体は朝鮮人と捕虜の中国人であった」（『地下工場と朝鮮人強制連行』兵庫朝鮮関係研究会編）とありますが、七五〇万人ですよ。航空機工業というのはほぼ一〇〇でそのうち兵庫県にはわずか三つです。私たちはこの三つを手がかりに調査を始めました。

甲陽園の「朝鮮國獨立」が新聞で報道されるとあちこちからここにもあるという電話が相次いで、実際調べてみるとあちこちにもこっちにもあるのです。航空機工業以外にも住友工業、東洋ベアリングもトンネルを掘っています。社史を調べてみると自動車工業だけでもニッサン、トヨタ、マツダ、ダイハツすべてトンネルを掘っていました。マツダの社史によりますと明らかに「強制連行してきた朝鮮人労働者でトンネルを掘った」と書いているのです。戦略爆撃調査団が航空機関係の地下工場を調べたのが一〇〇ですが、私たちはそれ以外にほぼ一〇〇〇ほどの工場があったのではないかと考えているのです。ですから中間的なまとめとしたわけです。

地下航空機工場は一九四五年の四月以降本格的にやっていますが、現在の朝鮮人強制連行の総数は一九四五年三月までの分なんです。現在、朝鮮人強制連行者数として出ているのは、六月六日の参議院予算委員会での労働省職業安定局長が答弁の中の「米国防略爆撃団の調査によれば六六

万七六八四人」というものです。私たちも調べてみると「戦略爆撃調査団報告」の第四二巻「日本の戦時生活水準の労働力の利用」の一三〇頁にぽつんと入っていたのが六六万という数字なんです、別に朝鮮人強制連行について調べたものではないのです。その注釈として書いているのが「日本移入総数、日本出国、前地区より転換、朝鮮人数資料入手できず」（厚生省労働局による）とあるのがたまたま戦略爆撃調査団の報告に載っていたのです。この職業安定局長は朝鮮人強制連行者数として戦略爆撃調査団報告を持ちだしてきたのです。

この戦略爆撃調査団の報告というのは一九四五年の秋に行われていますが、私たちがそれ以後新しい資料を調べますと、一九四五年のこの資料が余りにも貧弱なので一九四六年に厚生省が厚生省令等によって、各都道府県の勤務所、企業に朝鮮人強制連行についてきちんと調べるように通達が出ていたと書いてあるのです。政府は朝鮮人強制連行の総数は分からない、調べていないといっていますが、私たちが調べたところによると厚生省、都道府県勤務所、勤務所から企業に出した文献を入手しています。先日の名簿発表のとき労働省が昭和二十一年度に一六都道府県が行った調査による名簿として六万九〇〇〇程の数字が出ていますが、一九四六年に一六都道府県が足並み揃えて朝鮮人強制連行者の名簿調査をするはずがないですよ。後ほど交流会の場で私たちがまとめた具体的な資料をお見せしますので、

ぜひとも都道府県にこのような文献があるのを突き止めてください。そして各地で政府を追求していかなければならないと考えています。

次に私たちは、一九八六年八月に兵庫県「知事引継演述書」を公開していただきましたが、その中に朝鮮人強制連行の総数を推定できる数字がありました。これからすれば三万八〇〇人以上となります。この知事引継演述書が現在が公開されているのは北海道、京都、長野、山口、兵庫等で、他の都道府県ではまだ公開されていません。この全国知事引継演述書のなかで連行総数の都道府県別の数字があるのではないかと考えています。

また、市町村に対する要望を一九八六年に行いました。革新系の尼崎市では一九六七年まで朝鮮人強制連行者六六〇人の名簿を保存していたのですが、尼崎市史では頁の關係上ということで省略し、以後この名簿を紛失しています。これに対して私たちは真相を解明してほしい旨、要望書を出したのですが、「ご指摘の強制連行につきましては法律や通達等に基づき行なわれたものであり、その真相解明は一公共団体においてできるものではなく、政府の責任において行なわれるべきものと考えられます」という無責任回答を一九九〇年八月一日に出してきました。

企業に対する要望書を六月一日に二五の企業に送り一六社から回答がありました。尼崎市の日亜製鋼の五〇年史には「敗戦直後当社は躊躇することなく第三国人を朝鮮に

送り返した」と書いていて、これはおかしいではないですか!! いつどのようしてきたのですか? 勝手にきたのですか? どこから何人連れてきたのですか? と電話で問い合わせても答えない。それで一年後東京の本社を尋ねて社史を見るとガリ版刷りの草稿ですが、これに一九四三年五月から六八〇名朝鮮から連れてきた、そして敗戦後には躊躇することなく送り返したと書いています。草稿にはこのように書いているのですが一般に出てくる社史には躊躇することなく送り返したということだけ書いています。これから考えても企業は資料を持っているはずなんです。それで資料を出さないという要望をしているわけです。

次に、保存運動としては、西宮市は平和非核都市宣言を行ない空襲の記録を残すことはやっているが被害者の歴史をやっていないので、「西宮の戦争の記録を残す会」がゼヒトンネルを保存して欲しいと要望した結果、一九八九年一月には一五〇〇万円の調査費を市が計上しました。

また姫路の教職員組合の先生方にも労働調査をお願いして、先生方がトンネル内をビデオに撮ってくださいたわけですが、先生方は、自分達はこれまで朝鮮人強制連行に関して教えていたけれども実感がなかったが、実際に調査をする事によって強制連行がどんなことかということを肌で感じる事ができ授業はもちろん変わった。今後は平和教育のいちばん大事なことで取りあげるべきではないか

とおっしゃっておられました。

最後にアピールしたいのですが、三菱、住友など大企業に要望書を送りましたが回答はまだです。そこで各地から要望書を送ることによって企業に圧力をかけないといけなのです。企業にはすべて資料がありますので皆で協力して要望書を送って資料を公開させましょう。私たちもやります。私たちの世代でできなかったら三世四世になっても徹底的にやります。皆さんの協力によって一〇年かかるところが一年でできます。みなさんやりましょう!! よろしく願います。

高槻「タチソ」戦跡（成合地下トンネル郡など）保存の会からの報告



同会世話人
宇津木秀甫

先ほど兵庫県の方から軍需工場以外にもたくさんトンネルがあったという報告がありました。たまたま米軍の戦略爆撃調査団の報告書があったから明らかにされたことで軍需工場以外にももっといろいろな性格を持つ地下工場があったことは解明されなければならないと思います。

高槻の場合は一九四四年の秋から工事が始まるのですが、当時の関係者の証言でおもしろいものがあります。国鉄はトンネル掘りの経験がありますから国鉄の工事局が、トンネル掘りの指導を提案するのですが、最初にトンネルを欲しいといったのは陸軍だったそうです。海軍は本拠地である日本の各地、舞鶴や佐世保の基地にトンネルをもっていたのですが、陸軍は侵略していくわけですから外地にそういう施設を造っていなかったということが分かるわけです。そして陸軍がトンネルを造って欲しいといった場所がまこ

とにおもしろいことに、日本の古戦場の近くであつたといふことです。松代は川中島の戦争があつたところですし、高槻は大山崎の合戦があつたところです。私はその頃学生だつたのですが、学校にいた配属将校が戦略戦史を教えてくれるなかに川中島の合戦も天王山の合戦もあつてどのように両軍が戦つたかということが書いてありました。

米軍の戦略爆撃調査団の報告の中に川崎航空機の工場の高槻でほぼ計画の半分が達成されていたということがありますが、これは全国で五番目の大きさのトンネルで、私たちはこの事実にあくまでもこだわっていかねければならなうと思つています。計画では地下軍需工場のなかにはもつと大きいものもあつたのですが達成率でいえば高槻は非常に高いのです。ということは労働力がたくさん集められたということなのです。当時阪神の工業地帯に多くの朝鮮人がいたという事実と関係が深いのです。

計画の半分が達成されたといつても、それがどのトンネルとどのトンネルをさしているのか私たちはまだ十分には確証を得ていません。それ以後の調査でも別のトンネル群が発見されて、私たちはそれもひっくるめて「タチソ」(高槻地下倉庫)とよんでいます。これは全部間組関係だと思ひますが、それ以外にもまだ海軍が掘つたトンネルがあつてこれは熊谷組ですが、東海道線の大山崎の合戦の場所にいちばん近いところ、つまり山に近いところがトンネルになつたわけです。これは大阪が空襲になつた場合にいち

ばん安全な場所だつたらうし、国鉄にいちばん近い場所でもあつたわけです。

連行されてきた朝鮮人の数はまだ分からないのですが当時の村人は二万五〇〇〇人くらいと考え、あるいは当時の飯場にいた人たちは三万人といい、一昨日聞いた一世の人たちは五万人はいたといわれるし、実数は発表されていないけれど全国の他の地域に比べればとても多く大人数が高槻に集められたということが分かります。もちろん労働者だけでなく老人も子供も集まつたという事実があります。

その人たちはもちろん強制連行だつたという証言もありまふし、隔離されて生活していたということもあるのですがその数は二万五〇〇〇人からいえばほんとうにわずかな数です。最近の証言ではたとえば徴用でいった軍需工場から脱走しても軍役だけは忌避したら裁判でやられるので兵隊になつて高槻にきて、朝鮮人が逃亡したら赤旗で信号を送る役をしたというような証言もあります。軍隊の中にもそういう形で来た人もいたわけです。

私たちはこの人たちが被害者であるといふことをはつきり押さなければこの問題の本質は解決しないと思つています。つまり強制連行というだけのとらえ方でなく、強制労働させられた事実や家族もひっくるめなければこの問題は解決しないと考へているのです。現在でも大阪など大勢の韓国・朝鮮人がおられますが今後たくさんの証言を集めなければならぬと思つています。

現在残っているものは地下で約一〇〇〇畝くらいです。

トンネルはほぼ規格サイズで、これは国鉄なりが指導したからだろうと思いますが、よそのトンネルのデータ等を見せていただいた時に似たものがありますので一つの規格のパターンがあったんだろうと思うわけです。間組は戦前、朝鮮半島に東洋一の水豊ダムを造り上げた企業で、朝鮮人を安くつかって大陸で儲けた企業です。その時の水が落下するダムのトンネルを造った監督が高槻にきていたという証言があります。農家に下宿していたのですが本名は名乗っていなかったようで、土方名という、つまり労働者に対するときの名前であつたわけで、どんなことがあつても本名で責任が追求されないようにしていたのだと思います。

私たちはこのようなことを調査し、保存する運動を一九八一年から市民運動として進めてきたのですが、ようやく市民運動として報告書を出したり、署名運動をして保存を訴えることができるようになりました。今年は「高槻『タチソ』戦跡（成合地下トンネル群など）保存の会」というものを新しく発足させました。今までは日本人の市民の会や在日一世の人たちの「むくげの会」と連帯はしていましたが、別の組織でしたので、今度は協同で運動を展開できるようにになりました。とくにこの運動は呼掛け人が非常に多く百十数名の著名人が呼掛け人になっています。このような中で従来あまり過去を語らなかつた二世の人たちも関心をもちはじめ、一世の人たちもいろいろ電話をくださった

たり新しい証言をしてくださったという流れができてきました。そして一世も二世も含めた市民の運動体ができあがりつつあります。現在はこの流れの中で新しく調査活動を始め同時に署名運動も始めています。

大阪府と高槻市に、三つのトンネルについてそれぞれの特徴をつかみながらそれに応じた保存の仕方を要求しています。またトンネルの保存と公開について行政が責任を持つこと、工事の実態を調査して明らかにしてほしいこと、犠牲者の慰霊碑を作るための土地を提供してほしいこと、記念の資料館を作ってほしいなどの要求の署名を今月中に出す予定です。

盧泰愚大統領が来てから強制連行という言葉がマスコミに大きく取りあげられています。私たちは署名を提出する前に強制連行者の名簿等について自治体に対して公開を要求したのですが、回答はやはり軍の特別工事であるから自治体には責任はなかつたというものです。これはもっともっと追求しなければなりません。私たちが要求した名簿の中には戦後、朝鮮人学校が警察の強権で閉鎖させられたときのもあるのです。そのときに朝鮮人の子供達を日本の学校に強制的につれていったわけですが、その時に出した通知や名簿の公開も要求したのですが、当時教育委員会が十分に出来ていなかったということでそれも分からないままです。ただ興味深いのは埋葬火葬の許可証の控えが一九三六年からの分が残っています。私たちはこれに注目し

て、「タチソ」の工事中に埋葬許可証は業者が使うべきだ
としたら、生きてる間は軍が使うとしても死んでからは自
治体が使うのかという問題が出てきますのでこれから追求
していきたいと思います。

また地元は韓国・朝鮮人の墓地が三〇〇数十ありますが、
一〇〇基程は無縁です。それも調べたり、トンネル工事
のいちばん近くのお寺に無縁の遺骨五つとそれ以外に位牌
が二つありますが、それに関しては書いてある名前で市の
埋葬許可証から出身地が分かると思いますが、遺骨の送
還にも着手しなければならぬし、現地で慰霊碑を作るこ
とも考えていきたいと思っています。また高圧電柱に触れ
たりする事故で亡くなった人など多少名前の分かっている
者もいますけれどもすべての名前を特定するのは至難の技
だろうとは思いますが、最後まで追求しなければならぬ
と思っています。

高槻には戦後の学生運動が起ったきっかけになった問題
があります。それは「タチソ」の工事にきていた人たちが
肩や腰が痛くて病院にいくと教授がエスエスという薬を出
したそうで、これは水道水のことなんです。当時の学生が
それを知って非常に怒って、戦後それを告発することから
学生運動につながっていったのです。当時大勢いた朝鮮人
は必ずしも強制連行ばかりではなくて自由労働者もいたと
思いますが、負傷したり病気になるったりしても隔離された
施設にいたので地元には病院があるという情報もなくわざわざ

さ京都までいったりという問題も起っています。これらの
問題も十分調べてみたいと思っています。

日本政府は広島島の原爆ドームといい沖縄の洞窟といい第
二次大戦の戦跡の保存を指定していません。つまり戦
跡としてそれらを認めてないのです。私は沖縄の洞窟も含
めて全国のトンネルを戦争の遺跡として、トンネル自身に
語らしめるために国に保存を要求する運動も必要だと考え
ています。頼りない政府であり頼りない自治体ですが、私
たち市民が実践的にやっていく、やはり政府に戦跡として
保存することを要求したいと思っています。

戦後補償については強制連行だけにしぼるのではなく、
どんな形にしろ心ならずも高槻に来てしまった人全体を対
象にしなければならぬと思います。非常に難しいとは思
いますが、市民運動によって故国へ帰られた人たちにも自
分の経験を発言してもらえようになるまで運動を進めて
いき、その人たちと連帯していくなかでこそ補償はち取
られるのではないか、そういう意味でより大きな運動に広
げていかなければならないという使命感をもっています。

瀬戸地下軍需工場跡を保存する会からの報告



大矢昭夫

私も瀬戸市の地下軍需工場跡を保存しなければなら
ないということ、今年の四月に発足したばかりの会で内
容もあまり進んでいません。今日は朝鮮人・中国人の強制
連行を考える会ということで、そちらの方面について
は調査が十分進んでおりませんが、ようやく工事をしたと
いう監督だった人から話を聞いているところです。その監
督をした人も数十人の監督をしたというくらいで、いくつ
かある他の工場では何人働いていたかわかりません。地元
では大内部隊という海軍がやって朝鮮人はいなかったとい
うように思っているようです。

私たちが調べている工場は愛知航空機が疎開してきたと
ころです。いま残っているのは瀬戸の中でも北の方にある水
野の地下工場の跡で、一部が市民公園として残っているの
ですが大部分が焼物などの土に堀取られてしまっただけで
残って
いません。

ここは岩山ではなくて、赤土と砂利が混ざった普通の山
なんです。入口はセメントで作ってしまっていて中は杭と板で
天井が落ちてこないようにして掘っていったようですが、
戦後その板を燃料や建築材料としてもっていかれて今では
ほとんどずり落ちてしまっています。

働きに来た人はこんな崩れやすいところで航空機の部品
を作るのかとびっくりしたというんですね。雨が降ると天
井から水が滴り落ちて機械が錆びてしまうような、まとも
に仕事もできないような地下工場なんです。この場所は今も
うすぐラグビー・サッカー場の建設のために埋め立てられ
てしまっています。

愛知航空機は市の南部にも工場があつて、そこは半地下
工場で胴体とか作っていたのですが今はありません。後は
いろいろ調べて見ても戦争の証拠になるようなものはほと
んど残されてなくて、水野の地下工場跡しかないのです。

瀬戸は瀬戸物の町で陶磁器産業が盛んですが戦争中は軍
の統制で企業合同にさせられたり、燃料の石炭も軍需産業
でないということでもらえなくて焼物が作れなかったのだ
ですが、そういう関係の資料も残されていません。それでこ
この地下工場だけはぜひとも戦争の遺跡として残したいと
いうことで運動を始めています。調査は十分進んではいま
ませんが、広く市民の運動として戦跡を残していきたいと思
っています。

今までに大勢の市民に参加してもらおうと現地見学をや

ってきました。また少し離れたところの地下工場にも調べに行きました。市へは保存するように申し入れをし、教育面でも学校でぜひ取りあげてもらおうように活動していきたいと思っています。八月一日からは市役所で、現在は市の図書館で展示会を開いています。図書館では高校生や中学生がたくさん勉強にきていますので見てもらうことができますと思っています。

展示会や現地見学をしたりしながら三重県や静岡県や岐阜県から徴用できていた人や学徒動員で来ていた人の話を聞いて、資料としてまとめたいと思っています。地下工場に限らず瀬戸の中でも徴用などで外から人が来ていますし、逆に瀬戸から徴用などで出ていった先で爆撃を受けた人とかもいるわけですが、戦争の被害者の数も市にはいつさい資料がないのです。瀬戸市では戦争中まではいくつかの町に分かれていましたが、それぞれの役場にも徴兵を含めて資料が全くのこされていないのです。現在編集されている瀬戸市史にも戦争の資料は集められていないという状況なので、この運動を通じて数少ない戦争の遺跡を残し、戦争の実態を明らかにするような活動をしていきたいと思っています。

私たちの会は幸いにもメンバーに恵まれています、私どもは地元のことを調べるくらいですが、国会図書館で調べてくれるメンバーもいますし、お母さん方で現地を案内するグループもありますし、教育面で取りあげてもらって

広く子供達に関心をもってもらおうという形で運動を進めている人もいます。市の図書館も好意的に扱ってくれていいますので目的達成のために皆で協力し、分かったことは会報にして情報を広げていきたいと思っています。会報はようやく今回八号まで出しました。なるべく広く情報を広げたいと思っていますので私どもの会にも入っていただき皆さんと連携して運動を進めていけたらと思っています。またニュースの交換もさせていただきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。



日本のすべての地域に侵略の証拠がある



「三重県木本で虐殺された
朝鮮人労働者（李基允・裴相度）の
追悼碑を建立する会」
金静美

私たちの会は一九八八年の九月から準備会をもちまして、一九八九年の四月に三重で結成集会、六月に大阪で結成集会をもって現在にいたっています。会報は一〇号まで出ていますが、私たちの運動の経過に関しては、私が短い時間でお話するよりは会報を読んでいた方が正確で分かりやすいと思いますので、ぜひ会報を読んでくださるようお願いいたします。

今日は、二年間足らずの運動のなかで私の経験したことをお話ししているいろいろな運動をやってらっしゃる皆さんに助けていただきたいと思っています。

事件の起った木本は現在三重県の熊野市で、紀伊半島の南端にあります。事件当時、木本にはトンネルを掘るための朝鮮人労働者が数十名来ていて、なかには小さい子供をつれて家族みんなで働きに来ていた人もいました。私は和歌山に住んでいるのですが、まだきちつと朝鮮人の歴史

を知ろうとしていないときには、なにげなく利用していた道路や鉄道を、あとから、この道は朝鮮人が作ったんだ、いつも利用している紀勢線も朝鮮人が作った、阪和線も朝鮮人が作ったというのを知りまして、言葉では表現できないような気持ちになったことがあります。

日本の各地に朝鮮人が作った道路やトンネルは数多くあると思いますが、朝鮮が日本から侵略されてなかったら故郷を遠く離れて、低賃金で過酷な労働条件の日本まで働きに来ることはなかったんです。北海道の炭坑でも九州の炭坑でもそうですけれども。そういう意味で日本の各地に侵略の証拠があるわけです。ふだんの生活のなかでは見過ごされていることが多いのですが、自分達が毎日歩いている道々が日本の侵略の証拠だといえるのではないかと思います。

紀勢線が全通したのは、日本の敗戦後の一九五九年ですが、一九二六年一月三日の正月休み、前日の朝鮮人と日本人のケンカがきっかけになって、朝鮮人が町を襲うといううわさが流され、消防組、在郷郷軍人会を町長が召集します。猟銃をもっている人たちも召集されました。その人たちに朝鮮人労働者が襲撃され、二人が殺されます。鷹口や銃剣で体中傷だらけにされるというような、虐殺でした。その約一週間後には、働きにきていた朝鮮人は家族もふくめて全員が、木本町から強制的に追い出されます。給料ももらわず着の身着のまま、家財道具もこわされて、鉄道が

まだ通っていませんので、そのまま船に乗せられて鳥羽に連れていかれたんです。

この事件について、熊野市で一九七〇年代、一九八〇年代に出された書物にも書かれているのですが、たとえば、『木本小学校百年誌』（一九七三）のなかの「鮮人（ハルコ）騒動の記」という文章には、鮮人（ハルコ）がわれわれの町で我がもの顔にふるまったから自衛のために殺したんだ。というようなことが書かれています。また、熊野市が発行した『熊野市史』（一九八三）のなかの「木本トンネル騒動」という文章には、朝鮮人を殺したのは「素朴な愛町心の発露であった」と書かれています。朝鮮人に対する差別語を使って、こういうことが、一九七〇年代、一九八〇年代に、学校教師たちも目を通しているはずの書物に書かれているのです。二人の朝鮮人李基允氏、裴相度氏は一時間くらいの間に相ついで殺されました。

日本人組頭が作ったこの二人の墓石が、現在熊野市に残っています。それには「鮮人」という文字につづいて日本式の名前、そして日本式の名前からとった戒名が彫られています。私たちはこの墓石の存在と、この事件が現在熊野市でどのように伝えられているかということを知って、とてもこのままにしておくわけにはいかなと思います。朝鮮人差別の歴史的な証拠である墓石と、日本人が一九八〇年代になっても自分たちの地域の歴史をきちつと捉えていないことを、そのままにしておいてはいけないという思

いで運動をはじめました。

私たちが現在直面している問題は、地元の人たちが事件の根に朝鮮人差別があったことを認めようとしないうことや歴史をありのままに見ようとしないうことの厚い壁をどうやってつき崩すかということです。私たちは追悼碑を建てることを目的にしているのではなく、碑を建てていく過程に非常に意味があると考えています。地元の人たちが自分達の歴史を振り返り、もう二度とこういうことを起こしてはいけないという材料になってこそ、碑を建てる意味があるのです。この追悼碑を建てるという思想は日本の各地にある忠魂碑を守るという思想と対立するものになると思います。

私たち日本で生まれ育った朝鮮人にとっては、歴史を振り返ることは、アボジ・オモニたちが働いていた現場を確認し、自分たちの歴史を確かめることです。

殺されたとき李基允氏は二五才、裴相度氏は二九才でした。この二人の死の意味を徹底的に追求することが、今日の集会で考えようとしている強制連行された何百万人という人たちの思いにつながっていくのではないかと思います。私たちは運動の中で気がついたのですが、熊野市の多くの人たちは「木本事件」についてきちつと知る機会を持っていませんでした。地元で権力や勢力をもっている人たちの歴史に対する認識を変えるのは難しいことですが、やはり地元の人たちの力でしか変えられないと思うのです。それ

を私たちが提起したわけです。地元の人たちといっしょになって、朝鮮人を殺したのが「愛町心の発露であつた」などという考え方が許されている状況を変えていけるような運動にしたいと思っています。それは私たちの力だけではとてもできることではありません。各地で以前からこういう運動に取り組んできておられる方々との交流や支援がなければできないことです。どの運動であれ、成果を勝ち取れば私たちの運動に反映されてくると思います。

現在、具体的には、熊野市に対して、市史の書き換え、碑を遺族と私たちの会と熊野市の三者が合同で建てようということを提案しています。しかし、市史の書き換えも、碑を建てることも進んではいません。私たちは熊野市に何か足を運ぶなかで、熊野市の人で私たちといっしょに運動を進めようとする人たちにも出会ってきました。それだけでなく私たちの二年間の運動はむだではなかったわけです。地域の歴史を見直して二度とこういう事件を起こさないようにするためにも、ほんとうの意味で朝鮮人と日本人との関係をつくっていかうとする人たちにもっと出会いたいと思います。

七月の二二、二三、二四日に八尾のトッカビ子供会と和歌山県の子供三人、熊野市の子供一人が「本本事件」の現地調査に行きました。その子供達が作文を書いてくれました。事件当時、日本人が朝鮮人を追いつめ、朝鮮人がダイナマイトを投げた時に同じ現場で働いていた日本人もいっ

しよにダイナマイトを投げて闘ったのですが、その話を聞いた小学五年生の女の子が、いっしょに闘う日本人がもっともつといればいいなと書いています。その子は日本で生まれ育って日本の学校に行っています。

朝鮮人と日本人の関係のあり方が、運動のなかでいつも試されています。市史を書き換え、碑を建てる運動の過程で、地元の人たちとその意味をどこまでいっしょに考えることができるのか、今後もっともつと深めていかなければならない問題だと思っています。李基允氏、裴相度氏の死の意味を徹底的に追求することが日本の侵略によって殺された大勢の人たちの死の意味を考えることにつながっていくと思います。不十分ですがこれで終わります。

なぜ、いま戦後補償なのか



「中国人強制連行を考える会」

田中 宏

今日は中国人の具体的な強制連行の問題ではなく、少し全体的な問題を報告して今後の議論の材料にしたい。また、たいというつもりでレジメを作りました。

今年をどう位置づけるかということですが、日韓併合から八〇年、「昭和」が終って天皇も代替りし、いろいろなことを論議するきっかけができました。さらに今年は韓国のノテウ大統領の来日もあって、前の天皇よりももう少し踏み込んだ発言があり、そういう意味では状況がすこし違ってきているようです。

広島・長崎の原爆の日における市長や政治家の発言の中にも、アジアに対する加害責任の問題を自覚する必要があるのではないか、という意見が前よりは少し強まってきたように思います。その中で朝鮮人・中国人の強制連行や強制労働に関する全国交流集会が戦後四五五年目にして初めてもたれたのは、遅きに失したかもしれませんが、それなり

の位置づけができるという気がします。

補償問題では政府間でかたがついたはずだという意見があります。その意見には、どういう問題があるのか、あるいはその意見と私たちの意見とはどう違うのかということの説明が必要が出てきたと思います。佐藤勝巳さんは日韓請求権協定ですべてけりがついているはずなのに、と非常にご不満のようで、最後のくだりで、「それにしてもどうしてももう少し未来に目が向かないのだろうか」と述べている（現代コリア一九九〇年八・九月号）。一九九〇年の今、過去は振り向かないで未来を見ようという立場と、四五年もたったけれど、それまでに何があったのか、そこから何を学ばなければならぬのか、それをいかにないがしろにしてきたのか、実際に足を使って確認していく立場との違いということではないでしょうか。

日韓間には二五年前に日韓条約ないしそれに関連する一連の外交協定が結ばれたことは事実です。しかし日本と北朝鮮との間にはまだ何もなされていないのも事実ですから、少なくとも北半分との間では一九四五年の八月一五日以降何一つ解決していません。

日韓についても請求権協定ですべて片づいているという立場を貫くとすれば、在韓被爆者の問題とか、サハリンに置き去りにした人たちの問題とか、太平洋戦争遺族会の人たちの問題とかは、みな無視すべきものになるのです。

私はちょうど一週間前、太平洋戦争犠牲者遺族会の人と

日本に対する裁判を準備する過程での話し合いに韓国にいったのですが、そこで感じたことは、政治外交的な解決がいかに個々の人間を踏みにじっているかということです。

約一万人の人たちが、太平洋戦争の犠牲者として、たとえば傷痍軍人もいるし、目の見えなかった人もいます。もちろん戦死者の遺族、父親の生死も分からない、遺骨もどこにあるのか分からない遺族もいます。本人の場合と遺族の場合がありますので、それぞれの住民登録とか厚生省から出た「受傷証明書」をもっている人たちもいます。高齢の人は犠牲者本人で、若い人だと親が犠牲者だった人ですが、六五年に全部ケリがついたという立場をとるとすれば、そういう人たちとの関係をどう考えたらいいのか、政治的解決というものが、いかに人と人との関係をいびつにするのかということを感じました。

もうひとつは、韓国における民主化の進展が社会的活動を可能にしたという背景があるようで、遺族会は七三年につくられたんですが、それは日本政府が払った三億ドルで、韓国政府が亡くなった八千人くらいに各三〇万ウォンを払ったが、その事についての不満を表明しようにもごく最近までほとんどその活動は許されませんでした。それがここ二年くらいでやっとデモもできるようになりました。そして今年の五月、ノテウ大統領がくる前におそらく最も強い調子の日本に対する責任追求を掲げた運動を日本大使館の前で座り込むなどしてやったのです。この前も一カ月間プ

サンからソウルまでの大行進をしています、それに対しての規制も少なかったようです。年輩のおばあちゃんもデモをしているようで、そういう人たちの声を表に出せるようになっていきます。そういうものをぜんぶ押え込んで政治外交的な取引をしたことで全部清んでるんだからという意見もあります、それらとの違いについての論議が非常に重要な課題ではないかと思うわけです。

中国との間では七二年、日中共同声明が出され、台湾との平和条約は一九五二年結ばれ、いずれも賠償問題はかたがついたことになっています。ところが台湾人元日本兵が補償要求で直接日本政府相手に裁判を起こしました。これについてはまだ最高裁が判決を出していませんけれども、日本側が特別立法をつくって戦争被害者の外国人に対して初めて日本政府がお金を払う唯一の例となりました。戦死者と重度障害者に一人二〇〇万の補償金を払うというものです。これは後にも先にも唯一のもので、これも被害者が裁判を起こしてやっとできたのが一九八八年、去年から受付が始まっていて目下進行中です。日本のマスコミは台湾に支局を置かないし、政府が唯一旧植民地の人に直接お金を払うのがどう行なわれているのか、どういう問題があるのか日本側には全く知らされません。全部ケリがついたという立場に立つ方が楽なんです、そのことで見失うものや、その間にできている壁が、やはり私たちの課題ではないでしょうか。

中国大陸とも共同声明が出されてケリがついているという言われていますが、中国人強制連行については花岡事件に関心をもつ人たちが、当面は鹿島建設との交渉を中心に動いています。去年花岡事件の生存者が何を要求したか。今年日本にこられた生存者・遺族の方々と鹿島の直接交渉でまとめられた「共同発表」がありますが、先ほどの話とからめて申し上げれば、中国人の要求項目の第二に「記念館」の建設があります。そこに資料を保存する、記念館を見学する人は花岡で亡くなった人たちを追悼するとともに、後生を教育するために存在する、さらに鹿島の懺悔を讀え敢然として悔俊するものの模範となるように求めている。最終的に鹿島がどういう補償をするかは、これからの交渉にかかるとはありますが、おそらく今後いろいろな問題に関係してくるであろう企業と政府との関係が解明されなければならぬと思います。いろいろ調べてみると有名な泰緬鉄道も鹿島建設が関係している。松代大本営にも関係している。しかも鹿島守之助は戦後一八年間日本の外交政策に重要な責任者として係わった人です。

企業が如何に政府と癒着して戦前から戦後に生きてきたかということが、一つのケースを探っても出てきます。中国人・朝鮮人強制連行との関係で補償の問題が出てきますが、日本政府は戦争中に朝鮮人・中国人を使つたことに伴つて受けた企業の損害については「国家補償」というお金を払っているのです。その企業が使つた朝鮮人・中国人に

対しては何の補償もされていないのが現実です。

歴史認識や時代認識を十分踏まえたうえで、今年初めて朝鮮人や中国人の強制連行に関するこういう集会がもたれたのは、そんなに遅すぎたとは思えないでもいいと思つています。この種の問題に取組まざるを得なくなったのは一九八五年くらいからだと思えるのがいちばん自然であると思つたのです。一九八二年の教科書問題、八五年の靖国公式参拜で、アジアとの間に決定的な亀裂が生ずる。しかも避けられない。それまではアメリカの尻にくっついていればたいていのことは片づいてきたのですが、そろそろそれが通用しなくなってきた。中曽根という政治家が出てきて「国際国家日本」だとか戦後の総決算だとか、新ナショナリズムを唱えるようになって、日本人が「円」の力を借りて傲慢になりアジアとの亀裂が拡大しています。南京大虐殺の記念館ができたのが八五年八月一日で、まさに中曽根が靖国に行ったその日なんです。蘆溝橋に記念館ができ同じ年の八月一日に韓国は独立記念館を作りました。日本と歴史認識のずれがますます拡大しています。

そういう状況のなかで問題を考えていけば、戦争が終つて五年くらい感覚でこの問題に取組むと、ちょうどいいんじゃないでしょうか。私は小学校三年が敗戦ですが、戦争はアメリカとの間で終つたというのが率直な感想だったわけで、八五年くらいになってようやくもうひとつのアジアとの関係を真剣に考えざるを得なくなったのです。こう

いう集会がもたれたり、鹿島建設が中国人生存者・遺族を前にして謝罪したことも、戦後五年だと思えばそんなに古い話だと思わなくてもいいのではないだろうか。

三分間アピール

「八王子地下壕問題を考える会」 斎藤 勉

私たちの団体はできて間がないんですが、個人的には八王子の地下壕の研究をしてきました。今日は三点ほど申し上げたいと思います。

①兵朝研の方々が熱心に全国の地下壕を調べて本にして出されましたが、今後は地下壕を系統別にまとめる必要がありますと思うのです。たとえば浅川の地下壕は発注形態からみますと陸軍・運輸通信省・民間会社という形で、松代とか高槻と同じなんです。これからはそういうことをまとめていく必要があると思っています。

②浅川にも多くの朝鮮人が動員されてきています。掘ったのは佐藤工業と大倉土木なんです。佐藤工業の方は黒部のトンネルから約五〇〇人くらい連れてきて掘っています。大倉土木の方は丹那トンネルの方から連れてきたようで、直接朝鮮半島から強制連行してきたということではなさそうなんです。どういう形で参加したのかということを明らかにする必要があります。

③まもなく浅川の地下壕も学校建設によってつぶされようとしています。もうほとんど秒読みという段階で保存とか交換ということは考えられないのです。全国の戦争遺跡は

高度経済成長と共になくなっていて、広島など一部にしかありません。戦争遺跡として残っているのは地下壕だけではないかと思うのですが、世論も盛り上がってきていることですし何とか残していくようにしなければならぬと思っています。

「日朝協会愛知県連合会」
愛知県下の朝鮮人強制連行歴史調査班 小出 裕

一九八五年末から愛知県下の強制連行の現場を尋ねようということでグループをつくりました。今日は四五年前の話ではなくて最近の話をしたいと思います。

旧三菱重工の名古屋航空機製作所道徳工場における東南海地震の犠牲者の扱いをみると、朝鮮人関係は約三〇〇人動員されていたなかで六名が亡くなっています。これを政府はどういう扱いをしているか。特に女子挺身隊といますと韓国内部では日本の天皇の軍隊慰安婦として現在の韓国ではタブーにされています。家から女子挺身隊を出すと一族末代までの恥だという固定観念になっています。われわれはこの問題を調査するために三菱関係、愛知県関係、厚生省等に当り代表を韓国に派遣して関係役所を尋ね歩きました。調査したうえで遺族に尋ねると半分以上は門前払いです。

この問題を頭において一九八八年四月二五日に議員を通じて決算委員会で外務大臣に質問しました。外務大臣の答弁は「ご遺族のまた本人の名誉というものは新しくきちつとしたい。なんらかの措置をする」というものです。この内容には、工場勤めの挺身隊には回復すべき名誉があつて慰安婦として動員された人々には回復すべき名誉はないのかという問題があります。挺身隊関係は今度の名簿の中ではらち外におかれています。政治外交の小道具にされてしまった今回の名簿発表はあれでよかったのか。良識をもって日本と韓国・朝鮮の関係をきちつとしていこうとする民衆の心からを考えますと今度のやりとり結果について、もつともつと皆さんといっしょに勉強し考えていきたいと思つています。

愛知県「半田空襲と戦争を記録する会」 関 守

私どもの活動は小・中・高・大の歴史の教員が中心になつて作っている会です。約七年ほど前に活動を始めて記録集を作りました。旧中島飛行機製作所の社史を中心になつていたのは会社の役員だったOBの方たちですが、そういう協力者があつたからこそ記録集もできたのです。今はその方たちは亡くなつておられます。

当時強制連行で一二〇〇人の朝鮮人がいたのですが、そ

の朝鮮人を含めたかつての従業員の名簿を貸してほしいと申し入れましたら、会社のコンセンサスがえられないというところで今のところ拒否されています。あのOBの方達が生きておられたらなああと悔やまれてなりません。

私たちはこの記録集を基に高校の教員達が中心になつて聞き取りも含めながら、それをふくらませて毎年演劇をやっています。今年は六回目でした。またこの記録をもとにして名前こそ違いますが史実に基づいて絵本もつくつてきました。この絵本もアメリカの篤志家が本国へ帰つて英訳もされました。こういう形で私たちの活動も点から線へ、さらには面へ広がつていこうとしています。今後よろしくお願ひします。



三重県「朝鮮人史研究会」 島津威雄

私たちの会はまだ実態がないのです。現在、三重県の朝鮮人関係の新聞記事の洗いだしをしようと呼掛けをしています。五月から朴慶植先生に来ていただいて、日本の敗戦までの在日朝鮮人の運動史の講座を開いています。当初、私たちは三重県の中の朝鮮人の人権とか教育を考えていうということから始まりました。

一一年前に三重大の二人の朝鮮人が教師になったということから始まって、現在は指紋を拒否する学生とかいて集まりをもったりしています。

三重県の中でいつ頃からどれくらいの朝鮮人がいて、どういうふうに暮らしてきたのかということも資料が何もありません。そういう状況の中で、やはり自分達が掘り起こして書き留めていくしかない、遅まきながら今からやっていこうと思っているのです。それから木本事件については「追悼碑を建立する会」と共に熊野に行ったりしています。朝鮮人と日本人がいっしょにやることの苦しさというものを痛感しています。

三重県「在日韓国・朝鮮人の人権を考える会」 竹本 昇

私たちがどんなことでやりたいんやということを言わせ

てもらいたいと思います。僕自身は部落出身で勤務先は市役所です。なぜ在日朝鮮人のことをやらないかんのかと思うと、部落出身で部落差別を受けてきて一般の日本人から阻害されている自分が、一旦日本人という立場にたつと今度は韓国人・朝鮮人を差別するという中に生きている。その矛盾というか情けなさというか苦しさというか、自分の両親を恨むようなどうにもならへん日本の差別の中で、やっぱりほっとけへん問題なんやということを気づかされていったあたりでこの「考える会」を少しでも担っていきたいということですよ。

市役所という行政側の職員ということになると指紋押捺を執行していく立場になる。あるいはは国籍条項で就職差別を否応なしにするという、いわゆる法は守らないかんやんかということとで差別の法律を強要する立場にある。それでも憲法が優先されらないかんやんか、もっと人権が大事にされないかんやんかというところへんで毎日が苦しいというか、やっぱり自分の問題なんやということとで会をすずめて行きたいんやけど、上野にも在日韓国・朝鮮人が四五〇人ほどおってまだ足も運べない状態やけどこれからやっていきたいと思っています。

自分の問題やと思う以外にこの問題を解決する道はないんやないか、自分の問題にすることによって始めて人権尊重の内実が保障されていくんやないか、自分のものにできるん違ふかと思えます。在日韓国・朝鮮人の人権を認める

ことによって始めて自分も解放されるというか……。

三重県の在日朝鮮人のまじめな男の子が結婚差別で、いい加減な男やといわれて差別される事件が起っています。その裁判に取組む最中ですのでいっしょに闘ってほしい。ただきたいと思います。ありがとうございます。

「外登法と人権を考える会」 松浦吾郎

この会は青年達が中心になっていますが、はじめたのは仲間の在日の子が本名宣言をしたのにうたれたのがきっかけです。そのときから歴史を勉強しようということである方達が調べられたものを利用していただいています。

松代の地下壕に二回、西宮の地下壕に一回行きました。キムの十字架の話のスライドにしようと三年がかりで、昨年の九月にようやく完成しました。私たちは教会関係なんです。いろいろな教会をまわって上映しながら訴えています。

繁栄の明るさの中で考えるのと、地下壕の暗闇の中で過去の歴史を考えるのとは全然違うのです。私たちの道を誤らないためにも地下壕を大切にしたいという思いで運動をしています。

「花岡蜂起!!問題にこだわる会」 桜井秀一

私たちの会が本格的に始まったのは昨年の十一月に秋田県の花岡の現地に行つて強制連行・強制労働させられた証言を聞いてからです。

六月三〇日が四五周年の慰霊祭で、生存者や遺族の方がこられて七月五日に鹿島建設が謝罪しました。しかし生存者達の要求のうちのひとつである記念館を作ることにについてはなにも具体的に答えていません。それは今後の大きな課題です。四五年前にあれだけ虐待・虐殺した企業がどういう形で責任をとるかということは大きな問題だし解決には時間がかかるだろうと思っています。

鹿島建設は大陸やアジア各地で鉄道建設や炭坑周辺の工事などをやって大きくなったわけです。それは日本の侵略・植民地支配と密接に結びついているわけで、そのあたりをきっちり調べていきたいと思っています。

大阪への中国人の強制連行の問題も今後の課題にしています。これらは大きな問題だし時間もかかるだろうしこれからこつこつとやっていこうと思っています。

今日も一七才の青年がいっしょに参加していますが、私たちの次の世代がいっしょに行動していろいろなことを話しあえるということは明るい材料やと思っています。僕らの親の世代が生存者の遺族の世代でもあるのですが、僕ら

と、また次の僕らの子供の世代と手をつないで侵略の歴史を勉強し、はじめをつけていきたいと思います。よろしく願います。

兵庫県・神戸学生青年センター 飛田雄一

私は「神戸学生青年センター」というところで働いています。ここは一八年前に日本キリスト教団が財団法人としてつくったもので、ユースホステルのような施設や貸し会場もありますが、同時にセミナーを三つ開催しています。その中のひとつが朝鮮史セミナーです。

最近では『天皇制と朝鮮』とか、亡くなられた梶村秀樹先生の『解放後の在日朝鮮人運動』などを本にして出版しました。いずれもセミナーの記録を本にしたものです。

今日の資料一八頁にありますのは、この交流会のために作った強制連行関係の資料集の一部です。朴慶植先生の強制連行の本など単行本が九〇冊ほど、論文が一一〇本ほど、それと韓国や日本の新聞記事の抄録などをまとめています。

昨年は朝鮮史セミナーで兵庫県下の在日朝鮮人の足跡を訪ねる旅を計画しました。兵庫朝鮮関係史研究会の方にガイドをお願いして西宮のトンネルや、山陰線の鉄道工事跡などに行きました。やはり具体的にトンネルに入ったり工事跡を歩いてみると現実感を与えてくれるということを痛

感しました。兵庫県の北には朝鮮人の名前がはいっている殉職の碑もあります。

私自身は兵庫県下の在日朝鮮人問題に関心があっている掘り起こしをやっています。たとえば兵庫県には情報の公開を請求していますが、隠したがる行政を相手にしつくやっています。

兵庫県「戦争の記録を残す西宮市民の会」 友松信也

西宮市は約四二万の市ですが高級住宅街が形成されています。その山手の一角、六甲山系の西の端に戦争当時、海軍の手によってトンネルが作られました。現在確認されているだけで一四本あります。これには建設大手五社が入っていました。朝鮮人労働者の手でトンネルを掘ったという日本人の証言があります。

私たちは活動を始めて二年ほどになりますが、ここで働かされたという朝鮮人労働者にはまだあっていません。今年の夏も韓国のKBSが来て調査し、証言者を探すといっていますが現在までは朝鮮人労働者の証言は得られていません。当時の関係者によると川西航空機が主に関与していたらしいのですが、当時の社員証の証言によると五〇〇人とか一〇〇〇人の朝鮮人労働者が働いていたと考えられます。私たちはまず西宮の市史にその記録をしつかり残すとい

うことと、「朝鮮國獨立」とか「緑の春」とかいう解放の喜びを表わした詩などが残っているトンネルを保存したいと思っています。西宮の強制連行の証拠や、加害者としての戦争責任を後生に伝えていくためにもトンネルの保存を西宮市に要求しています。

西宮市は昨年一五〇〇万ほど使ってトンネルの調査をしました。花崗岩でできているトンネルですので頑丈ではあります。亀裂が入って危ないので保存には四苦八苦しています。トンネルの上にはすでに家が建っていて坪五〇〇万以上もする高級住宅街ですから所有権をめぐって市も国にはたらきかけをしているところです。私たちも建設に関わった五社に対して朝鮮人労働者の名簿を出すように要求し、また国にも国会調査団をいれてほしいと要求しています。全国にたくさんトンネルはありますが、今後調査していく上で西宮市が一つの突破口になりながら責任の所在をはっきりさせていきたいと思っています。

岡山県「亀島山地下工場を語りつぐ会」 天野潔

亀島山地下工場は倉敷市の水島コンビナートの喉元にあります。ここは太平洋戦争の末期に三菱重工の水島航空機製作所が多くの朝鮮人を動員して地下に軍事工場を掘りました。当時、朝鮮人三〇〇〇人がいたといわれています。

その内の約三〇〇人が強制連行されてきた一〇代から二〇代の前半の若者で、しかも鉄条網で仕切られたバラックに収容されていたそうです。そこから劣悪な労働条件のもとで労働をさせられたということが分かっています。

このトンネルは未完成の部分も含めて二〇五五坪にも及ぶのです。ここが軍事工場跡だということはあまり知られていませんでした。一九八〇年頃から市民の間で戦争を語り継ぐ遺跡が、この水島にもあるということでトンネル調査を始めました。学校の先生や医療生協や市民生協や民団や総連など、団体や個人を含めて現在五〇数名が参加しています。この間、スライド上映会やパネル展などを開催してきましたが、これがマスコミにも取りあげられて市民の間に自分達の身近に戦争の遺跡があったのかと大きな反響を呼びました。これらと並行して倉敷市の中央高校の生徒が無縁仏の返還運動を始め三体が韓国に帰りました。

現在、戦争体験を掘り起こし、次代に語り継ぎ、日本の戦争責任を明らかにして身近なところで戦争や平和を考えることが必要だということで署名運動に取組んでいます。また九月の市議会に取りあげてもらい、保存されるように進めていきたいと思っています。今後はもっともっと運動を強めて日本の戦争責任を追求していきたいし戦争をなくす運動に全力をあげていきたいと思っています。

長野県「松代大本営を考える会」 山根昌子

松代大本営というのは一九四四年にトンネル式の地下施設を作ろうという計画の中のひとつです。この計画は松代大本営、浅川、愛知の小牧、大阪の高槻などにあったわけですが、この中では松代がいちばん早くまた規模が大きいのです。

なぜ松代が早かったのか、規模が大きかったのか、動員された人数やお金も多かったのかといえば、まさに大本営であり天皇がはいるという大前提があったからなのです。彼らの生き残りのために朝鮮人は皆殺しにされていたという悲惨な事実があるのです。

現状については、八月一六日の段階で四六〇戸に限って公開することになりました。しかしトンネル内の重要な部分が壊されて、通路に全部フェンスが張られてしまいました。檻の中の動物になったような感じですよ。私たちはそういう保存の仕方を望んだのではなく、ありのままの状況を残してほしいと訴えました。が容れられませんでした。

十一月十一日十一時十一分は一九四四年に松代に第一発目の発破があった時間です。十一という字に吉という字をイメージして軍がやったということなんですが、それに合わせて全国トンネル会議の一回目を松代でやりたいと思っていますのでぜひご協力いただきたいと思っています。アポロジーズという曲をキムの十字架の完成に合わせてひろさ

かまさふみさんが作詞作曲してくださいました。アポロジーズ（謝罪）の意味を未来のために過去ををどう活かしていくのかというように理解して、すべての人と心もあわせていきたいと思っています。

兵庫県「姫路朝鮮問題研究会」 中浜久喜

会は五年前にできたのですが、実際にこの問題について活動を始めたのは三年前です。

兵朝研の方といっしょに姫路市の隣にある加西市の北条地下工場に行きましたが、保存の問題でいえば残念ながらこの地下工場は私たちが撮影したあと壊されてしまいました。保存やその他の要望もでしたのですが努力も虚しく壊されてしまったのです。本などの記録も大事だとは思いますが、やはり地下工場を遺跡として残すということは戦争を実感するものとして非常に役にたつのです。歴史的な意味からも保存しておくのは大事だと思っています。また市史にもきちっと記録させることが大事だと思います。

私たちは教職員組合を主とした組織ですので、教材化して子供達に平和教育の一貫として実践していきたいと思っています。私たちは朝鮮学校の子供たちとの交流もありますので、この問題をいっしょに考えたこともあります。聞き取りこれらを含めて報告書づくりをすすめています。

調査をしてもなかなか証言が得られないのですが、これは地元に住む人たちが地下工場に対して関心をもつことも許されなかったという実態があったためだと思われます。

現在この問題は一種のブームになってる感がありますがこれをたんにブームに終わらせないで発展させていきたいと思っています。マスコミの方も大勢いらっしゃるようですがよろしく願います。

香川県「高松・空襲を記録する会」 浄土卓也

「空襲を記録する会」は全国的に多いと思うのですが、よくこれに対して、日本人の被害だけをいうのは非常に問題だと、厳しい批判があります。

私たちの会は当初から被害の問題だけでなく日本人の戦争責任の問題も常に視点に入れながらやってきました。なぜ朝鮮人の強制連行の問題に関わるかといえば、高松空襲の時に四名の朝鮮人が亡くなっている、これはいつたいなぜなのかという疑問からなのです。そして香川県における朝鮮人の問題に一人で一五年間関わってきました。

最近では強制連行の問題に取り組んでいます。香川県には三菱の関係で一〇〇〇名を超える強制連行をおこなった企業があって、この実態に迫ろうと思ってやってきたのです。この中でたった一人名前が分かったのですが、この方も創

氏改名のなかで姓は日本の姓で名前だけが朝鮮式になっていきます。香川県には慶尚南道の方が多いのですが、河本まんなちよるさんという方なので朝鮮名では河さんだろうと想定していま手紙を出しています。当時の製錬所の分だけで約一二〇名の名前が明らかになりつつありますが、確認する方法がないので、この河さんを唯一の手がかりとして名前を確認するきっかけができるのではないかと思っています。一人でやっていることで遅々たる歩みですが、今後も続けてやっていきたいと思っています。よろしくおねがいします。

九州在住 金光烈

私は二〇年間お寺を歩いて同胞の遺骨を探しています。その間、多くの日本の皆さんが支えてくださいましたが、在日韓国・朝鮮人が何故日本にいるのかということを多くの日本人は分かってないです。ひとつには教育問題だとも思うけれども何故いるのかを分かってほしいと思うので、いろいろな集会に参加して話しをしているのです。

この頃は新聞でもテレビでも「強制連行」という言葉をよく使いひとつの流行のようになっていますが、強制連行というのは人を捕まえて、銃剣で脅して、連行するということをいっていると思います。徴用とか募集とかも含めていわれていると思いますが、私は必ずしもこれに賛成では

ありません。私たちは皆自分の意思とは反対に日本帝国主義の植民地政策によって強制的に国を追ひ出されてきた者引つ張られてきた者だと思っています。

今日ここに来て私たちの次の世代の方々が非常にたくさん集まっておられると思いました。次の世代に私たちがやってきたことをつなげなければ両国間の平和は維持できないと思うのです。運動のなかでこうだったああたったと事実を並べるだけでなく、拡大進化させなければならぬと思います。ひとつのことをもっと深めていくことが大事だと思うのです。

私たちのやっていることはいったい何なのかといえ、私は失った私たちの歴史を取り戻す運動であると思っています。自分が住む地方の歴史を掘り起こす作業はぜひ自分でやりたいと思っています。東京から来てちよつと調べて三日間で本を書いた人もいますけれど私はそんなやりかたに賛成できないのです。自分達の地方の歴史の事実を知ることによって両国間の民衆が共通認識をもつことが大切だと思ふのです。

謝罪についてはどうも口先だけのように入います。私は二〇年間に約三〇万歩を走って同胞の遺骨五一二体を確認しました。他にも日本人の名前になっているが、住職がこれは朝鮮人のものであろうといわれたものもあります。過去帳には二一七五名の名前がありますが、これも日本人の名前になっているものをいれると多くなります。私

のしてきたことはこれだけです。

天皇も首相も謝罪をしたというけれどもこれは強制連行に対してだけではなく、植民地政策全体に対して悪かったということだと思ふのです。これは非常に大事なことです。天皇は全斗煥大統領が来た時に謝罪したのに、今度またしました。口先だけで三回目の謝罪はしないでほしいと思います。

富山県「強制連行の足跡をたどる旅・富山」 澤田純三

私の町に地下工場があるということを一昨年聞きました。今年の春から二〇人ほどの仲間で富山県における強制連行の足跡をたどることになりました。

「富山県警察史」によりますと、昭和一七年に富山県には朝鮮人が一四四八人、終戦時には約五〇〇〇人いました。また同書には、県内の人的資源がほとんど出尽くした昭和一九年には朝鮮から多くの女子挺身隊が送り込まれたのですが、一一月には女子挺身隊八〇〇人が県下に派遣され、二〇年三月までには二八〇〇人に達していたとはっきり書いています。県の統計資料を見ますと私のいる庄川町には大正一五年ぐらいたらダム工事のために二〇〇〇人の朝鮮人がいたと書いてあります。また大正一五年の新聞には八〇〇人余の朝鮮人がストライキを起こした記事が載ってい

ます。続いて数字をあげますと昭和一九年に富山県にきて
いる朝鮮人は九〇八六名です。昭和一二年には一七〇〇名、
一三年二三〇〇人、二八〇〇、三二〇〇、三五〇〇、一七
年に五六〇〇、一八年六二〇〇、一九年九〇〇〇、二〇年
八月で四〇七五というのがはつきりしています。これほど
はつきりしていながら、はつきりさせていない点を今後は
掘り下げていきたいと思ひます。皆さんのお力を貸してく
ださい。よろしくお願ひします。

北海道在住 坂本悠一

私は高槻にいたのですが今は転勤で北海道にいます。今
日は個人的なお話をさせていただきたいと思ひます。

私は一九八二年に大阪から小さいバスを仕立てて十数名
で岐阜県久々利の地下工場跡に見学に行ったことがあります。
一応テレビ局もついてきましたが参加人数が少なく拍
子抜けのかっこうで、行政の対応もいいものとは言えませ
んでした。おなじ年の五月には明豊建設という高槻の工事
を請け負った会社に朝鮮人労働者の労務管理について話を
聞きに行きましたが、それは孫受けの会社の責任やという
ことでほとんど何も話は聞けませんでした。その時、間組
の関係者を紹介してくれましたがその人には拒否されて会
うことができないままです。

今日は同じその名古屋に一〇年ひと昔といひますがこれ
ほど多くの人が集まって、若い人も多く、この問題を考え
ようとしているのには隔世の感があります。これを一過性
のものにするのではなく、それぞれの地域でもっと深い掘
り起こしが必要だと思ひます。

北海道は気候だけでなく、もともとタコ労働といわれる
ように過酷な条件があるのですが、そこに接き木をするよ
うなかつこうで強制連行され、おそらく労働の過酷さも犠
牲者も全国でもっともひどいものだったと思ひます。

七〇年代には民衆史掘り起こし運動が始まっていますが
残念ながら「札幌郷土を掘る会」以外では組織的な運動は
されていません。

私の住んでいるすぐ近くにこのやま金山というのがあ
って当時の従業員名簿がそのまま残っていました。今後
もこういう資料は出てくるだろうと思ひます。戦後四五年
たってトンネルの保存は物理的にもたいへんですが、資料
については日本人の責任としてきっちり保存していく必要
があると思ひます。

三菱徴用工問題 西野秀

三菱重工に連行されてきた朝鮮人徴用工の問題について
ご説明いたします。

三菱重工は軍需工場として一九四三年二月に広島市の観音にできました。三菱広島造船所と広島機械製作所に当時二六〇〇人から二八〇〇人ほどの朝鮮人徴用工がいたとみられています。というのは当時の資料や名簿などがなく、当時の関係者からの聞き取りだからです。徴用は一九四四年の四月頃から数回にわたっています。徴用は一九四四年の四月頃からは分かっていました。

当時、待遇が非常に悪いことや賃金も払われないので、多くの徴用工が三菱から逃げて他の所で働いていたそうです。八月六日の原爆、当時寮に残っていたのが八二〇人ではないかという話もあります。ただこの事実は被爆していないということの意味するものではありません。被爆は直接のものと、残留放射能の中にはいった人たちの被爆があるわけで、徴用工たちは広島市内の死体処理とか後片付けに働かされた人が非常に多かったので被爆した人たちも多くいたと思われます。

この八月六日を境にして避難する人や、一五日の敗戦以降は広島を去って朝鮮に帰るために下関に集まります。

ところで三菱徴用工問題で声をあげているのは一九七四年四月に結成された「三菱重工被爆沈没遺族会」という団体です。一九四五年の九月に徴用工二四一人が最後の手段として広島から帰るのですが、この人たちは朝鮮にたどり着けなかったらしいのです。九月一七日に台風に巻き込まれて玄海灘で遭難した可能性が強いのです。その二家族が、

三菱が徴用したのであればきちんと送り返す責任があったはずだと主張して補償要求を一九七四年に出しています。

もう一つの「三菱重工被爆徴用同志会」は韓国に無事帰ることができた人たちで作っている団体です。両団体は非常に近い関係にあり、七四年から七六年にかけて名簿の提出や遭難の実態調査、未払い賃金の問題、戦後の生活補償などの要求を三菱本社に出しています。三菱側の回答は未払い賃金については日韓条約で解決済みである、その他のことについては出来るだけのことはやったという態度です。先日ソウルからキムチョンに行って遺族会のオチャンスンさんイサンボンさんにお会いして、謝罪から日本の植民地支配の戦後処理の問題などの話を聞きました。今年の八月四日、ソウル市内の沈没遺族会の総会を開いて、三菱重工に対し正式な謝罪、徴用者名簿公開、犠牲者の調査、遺骨の捜索、祖国への送還、未払い賃金と補償金の支払いなどを求める内容で戦後補償を求める裁判をしたいと明らかにしてきました。

遺骨の問題に関しては玄海灘で遭難した人々のことでもあります。実は七〇年代の後半に吉岐、対馬をまわって現地の方々を聞き取り調査したところでは、流れ着いた遺体のなかにはチマチヨゴリの人もいたという証言もあったそうです。これらについて厚生省は朝鮮半島出身の人とおもわれるが、断定できるものではないという曖昧な言い方をしています。

閉△云の挨拶



朴慶植

日本の各地からこんなに大勢集まって全国交流集会が開かれたことはたいへん嬉しいことだと思います。このような集会は5、6年前だったら考えられないことではなかったでしょうか。ここ10年ぐらいの間に皆さんが各地域で真しな態度でこの問題に取り組んだ結果、今日の集会ができたのだと思います。

朝鮮人、中国人、また日本人にとって強制連行・強制労働は、ただこの問題だけでなく、日本の朝鮮植民地支配の問題、アジアへの侵略戦争の問題として考えなければならぬと思います。強制連行・強制労働を考えることは植民地支配・侵略戦争を考えることを一歩踏み出したに過ぎないのです。これからなんです。これらの問題は膨大なものだし、地下工場をはじめとする軍事工場、各地の炭坑などあらゆる所で働らかされた朝鮮人・中国人の調査はまだまだなんです。中国人の場合は占領軍の方から日本政府に対

して調査命令が出て調査していますから、ある程度の資料は残されて名簿までできていますが、朝鮮人に対してはそういう調査はなされなかったわけで、そのまま今まで過ごしてきたわけです。それがようやく在日韓国・朝鮮人や日本人の手で解明されようとしているのです。

多くの人が関心を持つことによって日本の植民地支配の問題や戦争責任の問題が解明されようとしています。まだまだ弱いのです。われわれの力をもっと結集しないことにはまだ弱いと考えざるを得ないのです。

植民地支配や強制連行の問題はわれわれの歴史認識、日本の近代史をどう考えるか、朝鮮の近代史をどう考えるか、アジアの近代史をどう考えるかということの環として考えるべき問題です。今までの歴史認識は非常に歪んでいます。歴史の本はいろいろ出されているけれども植民地支配の問題や侵略戦争の問題が軽く、しかも間違っ書かれています。多いのです。これをわれわれは正さなければならぬ。民衆の歴史を保存する運動などが全国的になされなければならぬ。少しずつ発展しているとは思いますがわれわれの力はまだ弱い。

日本国民の歴史認識をどう変えていくか。正しい歴史を知ることが民衆の歴史を知ることであり、朝鮮人・中国人の強制連行を知ることが日本の植民地支配を知り、アジア侵略を知ることなのです。

日本では今までこれらの問題がなぜ無視され、民衆の歴

史を掘り起こす運動も弱かったのか。そこに大きな問題があるわけです。そういう意味で今日の集会は非常に大きな意義があったといえます。本当の歴史を掘り起こし、記録するという運動が今日の集会をスタートにして日本全国に広がっていけば日本人の考え方も変わっていくだろうという確信がもてます。強制連行・強制労働をさせられた朝鮮人・中国人に対して日本政府はどう償いをするのか。どう清算するのか。これを運動として展開するためには一人や二人では弱い。皆で力を合わせて力のある運動体として発展、展開させることが今後の課題であるわけです。

もちろんこれには調査活動が綿密に科学的になされ、一人一人が身体を動かして深いところまで進んでいかないと広がらない。知り得た情報はお互いに交換し、交流し、お互いに自分のものにしていくことが大切だと思います。

歴史認識を正していくことによって日本人の単一民族的な狭い視野の考え方を払拭し、本当の意味での国際的な関係が打ち立てられなければならないと思うのです。

朝鮮人として日本で住みにくい。日本の社会は日本人だけのものとされ、朝鮮人の人権は無視され、社会保障からはのけ者にされる。この日本人だけの社会、日本人だけの人権という排外的な考え方を変えなければなりません。運動を通して日本社会を変えることが究極の目的になると思うんです。

日本政府は資料を出さないですね。強制連行の資料は政

府は持っているんです。私が労働省で問い詰めたら、あるけれど見せないとやったことがあります。ないはずはないのです。朝鮮総督府から日本帝国議会へ提出したという報告があるのですから。とくに警察関係では各地の警察は朝鮮人を全部把握していたですから。

強制連行は朝鮮から日本に連行したことだけではないんです。朝鮮内で各地の軍需工場へ四八〇万人くらいの人を強制的に動員しているんです。さらには満州国でも炭坑や道路工事に徴用していますし、在日朝鮮人も徴用されています。これら全体を考えにいれて強制連行の問題を考えなければならぬと思うのです。強制連行の名簿は朝鮮から日本へ連れてくるとき作っているわけです。在日朝鮮人の徴用に関してもその名簿は当然自治体にあります。政府がないというのは探してないからなんです。ですから、徹底的に追求していかなければならないと思います。

死亡者の名簿については難しいかも知れませんが作成しなければなりません。その他皆さんもいろいろお考えになっていると思いますので、力を合わせて運動を進めてゆきましょう。

今日の集会は本当に意義のあるよい集会だったと思います。今後もお互いに頑張ってやってゆきましょう。

呼びかけ賛同団体からの メッセージ

全国交流集会のご成功を心より喜び申し上げます。みなさまの勢力的なご活動に対し敬意を表します。戦後四五年なおざりにされてきた強制連行、強制労働の実態をいまこそ明らかにし、戦争の歴史的事実を学びながら永久平和を実現するため共にがんばりましょう。

横浜から熱き連帯の思いをお届けします。

「日吉台地下壕保存の会」事務局長 寺田貞治

私たちは札幌で人権と民主主義を守る立場から民衆史掘り起こし運動を続けています。集会に参加できないことを残念に思います。ここに集会の成功を願いメッセージを送ります。

札幌にも朝鮮人強制連行の歴史がありました。一九三九年九月強制連行第一次の人々が札幌手稲山鉾山に連れてこられました。それ以来札幌丘珠飛行場、豊羽鉾山、札幌硬石山、北部軍事施設司令部地下壕建設工事と延べ約九〇〇〇人もの人々が働かされました。札幌の歴史はそればかりではありません。日本の植民地支配のもとで生活基盤を奪われた多くの人々が日本に渡ってきました。彼らの多くは

差別と迫害のもとで下積み労働者となりなかに騙されてタコ部屋に送られ命を落とした人もいました。札幌発電所や浄水場なども建設工事は日本人のタコ部屋労働者とともに朝鮮人労働者によって行なわれました。このような札幌の歴史と真実はいままで闇に隠されていました。民衆史掘り起こし運動の中で次第に明らかになってきました。戦争責任を考えるとき朝鮮などの植民地支配の責任を含めて考える必要があります。また私たちと政府が戦争責任を果しているのか、戦後も引き続く責任の問題として考えなければならぬと思います。

戦後責任を果たすには先ず政府や国民が侵略戦争と人権侵害の歴史的反省をすることです。国民は政府に再び戦争が起ることのないように、再び侵略戦争を繰り返さないように、平和で民主的な日本社会を建設し、主権者としての歴史的認識と人権意識をもたなければなりません。侵略戦争の実態を明らかにして国民に知らせなければなりません。天皇をはじめ民衆、マスコミ、教育など各界、各層の戦争責任と戦後責任を明らかにし、その賠償責任については西ドイツの例に学ぶだけでなく、徹底してあたる必要があります。人権回復についても同様です。たとえ被害国政府が日本政府にその請求を放棄しようともそれですまされる問題ではありません。日本の民衆は政府と企業がその支払いと人権の回復を行なうように要求する義務があります。

私たちは今日果たすべき戦後責任として次のようなこと

を考えたいと思います。

一、在日韓国・朝鮮人等への制度的差別を撤廃し、永住権を保障すると共に在日外国人に日本国憲法が保障する国民の権利を保障すること。

二、日本による侵略の被害を調査し、損害賠償を行うこと。

三、サハリン在住の強制連行外国人をはじめ各地で被害を受けている徴用外国人及びその遺族に祖国復帰、遺骨返還、人権回復、損害賠償を行なうこと。

四、恩給法、戦傷病者、戦没者、遺族援護法の国籍条項を撤廃し、韓国人被爆者をはじめ国の内外を問わずすべての戦争犠牲者に国家賠償を行なうこと。また支給に当たって軍隊時の階級差別を撤廃すること。

五、治安維持法等の犠牲者の人権回復、損害賠償を行うこと。

六、教育において侵略戦争や植民地支配など日本の誤りを教え、平和教育、人権教育を貫くこと。

七、天皇の戦争責任を明らかにし、憲法違反の大嘗祭に反対し、民主主義と天皇制が相容れないことを明らかにすること。

たいへんなぐくなりましたがこのような取り組みをもつて私たちは戦後責任を果たし、次代の歴史の形成者である子供達に私たちの歴史をつなげていきたいと思っています。

最後に皆さんのご健闘をお祈りして連帯のメッセージといたします。

一九九〇年八月二五日
「札幌・郷土を掘る会」代表 石田国夫

分科△云 報告

1 調木直・研究

司会 半田空襲と戦争を記録する会

関 守

1 参加者 17府県で47名

2 分科会の進め方

自己紹介を含めて全員が報告。一人2〜3分以内の報告でしたが、それぞれの団体・個人がそれぞれの地域でそれぞれの思いを込めて活動している状況を参加者全員で確認し合った。

3 主な報告

限られた紙面のため、全員の紹介が出来ないので、数例の紹介にとどめたい。

〈奈良〉…2千名の朝鮮人強制連行の事実が判明しているが、既に死亡されたものもあり、また日本

名（創氏改名により）なので本国名が判らない。

〈東京〉…東京江東区には東京オリピックで集められた、朝鮮人街ができた。

〈名古屋〉…小学生のときは「日の丸」が綺麗に見えた

が、今は…

〈神奈川〉…修学旅行で広島に行ったとき、在日朝鮮人の原爆被爆を始めて知った（教員）

〈名古屋〉…外国人登録の指紋押捺拒否の裁判に参加しているものですが、今集会への期待が大きい。

〈兵庫〉…朝鮮人問題の調査・研究で重要なことは、「埋もれている」という認識ではなく、「埋もれさせられている」という認識を持つことである。（兵庫朝鮮関係研究会）

〈石川〉…調査・研究の面で、マスコミの利用の重要性と報道関係の姿勢（とるべき態度と姿勢が問われている）の問題が指摘された。（町会議員）

4 討議の内容

調査・研究における認識上の問題で、兵朝研の代表から指摘のあった「埋もれさせられている」という点に関して、調査・研究活動する上で非常に重要な問題提起であった。

第一に、日朝両国における国家間レベルでの在日韓国・朝鮮人にたいする日本政府の基本的態度は「日韓条約」で既に解決済みとの認識に立っているということである。したがって韓国人・朝鮮人問題は「過去のものである」。

り、それを今更何を」と言わんばかりの態度をとり続けてきたことである。とすれば行政的には、これ以上の「強制連行」の実態の究明は必要ない、いやむしろこれ以上調査すること自体が、日韓両国間の親善友好にとって有害をもたらすとさえ考えている、といっても決して過言ではない。この発想が国や自治体の行政文書を「公」に明らかにさせる上で大きな障害となっているのではないだろうか。

第二に民衆レベルでの「加害」と「被害」の問題である。過去の忌まわしい事に手を加えた自責の念と良心の間に耐え苦しみながら、なおもそこから逃れたい、避けたいという意識が働く。出来ることならこのままそっとしておいて欲しいという加害意識が、善意にせよ歴史の事実を明らかにする上で一つの障害になっていることを忘れてはいけない。兵朝研の提起は「埋もれさせられている」ことが調査・研究活動を困難にさせている一つの要因であり、しかも重要な側面であることを改めて明らかにした。

そしてまた、民衆レベルでの加害者に対する加害責任を追求しようとする事が目的ではなく、当時の戦争遂行の目的達成の中で日本国民もまた加害に巻き込まれ、「加害」と「被害」に日韓・日朝の両国民が大きく巻き込まれていった事実を踏まえて調査・研究することが今大切であることを強調した点に大きな意義があった。

調査・研究にも、既に戦後45年経た今日、当時の証言者も年々少なくなる一方で、このことはまた活動をより困難にする。だからこそ今、熱い思いを込めて調査・研究活動することが必要であることを参加者全員で確認した。

いま日本政府は、韓国・朝鮮人、中国人をはじめアジア全域にわたった侵略行為を“過去のものだ。過去のことを今更とやかく言う事自体がおかしい。「親善友好」には過去よりも未来を言う事のほうが役に立つ”等々の論調を繰り返している。こうした潮流に残念ながら一部日本国民までが巻き込まれている。

過去の国家的加害責任を曖昧にしてどうして未来が語れようか。歴史の事実には虚飾はいらない。過去の事実が事実として明らかにすることである。

参加者の報告を参加者相互で確認し合い、今後の活動に生かされることを確信してまとめたい。

II 保存存

司会

神戸学生・青年センター

飛田 雄一

保存部会の参加者は31名。内訳は松本1名、大阪12名、愛知6名、岐阜1名、兵庫9名、東京1名、草津1名であった。

最初に参加者全員が自己紹介を行い、この交流会に参加した動機、自身の課題などについて話をした。

次に保存問題として現在全国的に注目されている高槻（タチソ）と西宮の地下トンネルについてパネルなども見せていただきながら、保存運動の現状および課題についてそれぞれ報告していただいた。

高槻からは、全体集会での報告を補足する形で吉崎さんから報告があった。最近、市民運動として盛り上がりを見せているが、開発がトンネルの近くにまで及んでいること、実際タチソで働いた朝鮮人の証言がマスコミに取り上げられたときに出演などで消耗させてしまっ、現在証言が得られにくくなっていること等が問題点として話された。

西宮からは、市民の会の友松市議や西宮市からも参加があり、それぞれの立場から報告がなされた。西宮市は89年度に保存・調査のために予算を立てるなど全国的に見れば進んだ面があるが、地下工場跡が高級住宅地の真ん中にあり買取って保存するときには多くの予算を必要とする。ト

ンネルの内部には実際に危険な箇所もあり修理と保存とをどう関係させるかなどの点が指摘された。
その後、全体で話し合いがなされ次のようなことが話された。

高槻、西宮とも保存の関係で地権者との関係ができていく。複数の地権者がいて協力的な人もいるが、そうでない人もいる。天神崎にならってトンネルの内部を市民で買取るというトラスト運動も考えられるのかな、という話もされた。

市史、町史などに正当に取り上げさせることも含めて、行政当局に保存のために働きかけていくことは大切である。そして、あの広島原爆ドームさえ国の史跡として指定されていないことなどが話題としてだされ、国に対して強制連行に関する資料の公開を働きかけていくとともに、近代の侵略の歴史を記録する史跡として指定させることも重要なことである。



Ⅲ 戦後補償

司会 三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者

(李基允・裴相度)の追悼碑を建立する会

斎藤 日出治

1 参加人数 35名

2 府県の数

京都2、長野4、三重9、愛知5、大阪7、兵庫1、
岡山1、東京3、山口1、和歌山2

3 主な発言

◆ 分科会の進行、はじめに全体集会の感想を話しあい、次に参加者全員の自己紹介を行い、最後に田中宏さんから今日の報告の補足を話していただいた

◆ 松代の保存運動が厳しい状況にある。地元の観光業者からレジャー・センターにしようという話がある。地元民は金になる話は賛成だが、たんなる保存には積極的でない。(地下トンネル自体は国のものだが山は私有地)サハリンの問題に取り組んでいる写真家から、強制連行は地下トンネルという形に残るものだけではなく追求する必要がある。

◆ 強制連行というのは戦時中の連行だけではなく、植民

地支配以降に、土地を奪われ、生活ができなくなつて、渡日せざるをえなくなつた人をも含めて、強制連行をマスコミで言うような狭い意味ではなく、もっと広くとらえねばならない。

◆ 戦後補償というのは、日本人自らの痛みとして受け止めるなければ意味がない。

◆ 田中宏さんに対して、「戦後45年たつてようやく運動が盛り上がったことは必ずしも遅くはない」という全体集会での発言はどういう意味なのか、という質問があり、田中さんの話はその点を中心に、日本の戦後史を在日韓国・朝鮮人の民族差別に抗する社会運動という視点から整理した形で、行われた。

65年の日韓条約の締結によって戦後補償はもう済んだという社会通念に対して、70年代はその通念に対する疑問をなげかける運動が始まる(日立の就職差別裁判など)。80年代に入つて、指紋押捺運動の盛り上がりが大きな意味を持つている。82年の教科書問題は国際的な反響を生んだ。この盛り上がり背景に、85以降、強制連行を考える本格的な運動が繰り広げられる。88年にアメリカと西ドイツで戦後補償が行われたが、日本に与えたインパクトは大きい。このように、戦後補償の問題は日韓条約から20年立って、初めて外交レベルではなく、社会レベルで捕らえ直される状況が作られたのではないか。

第二部



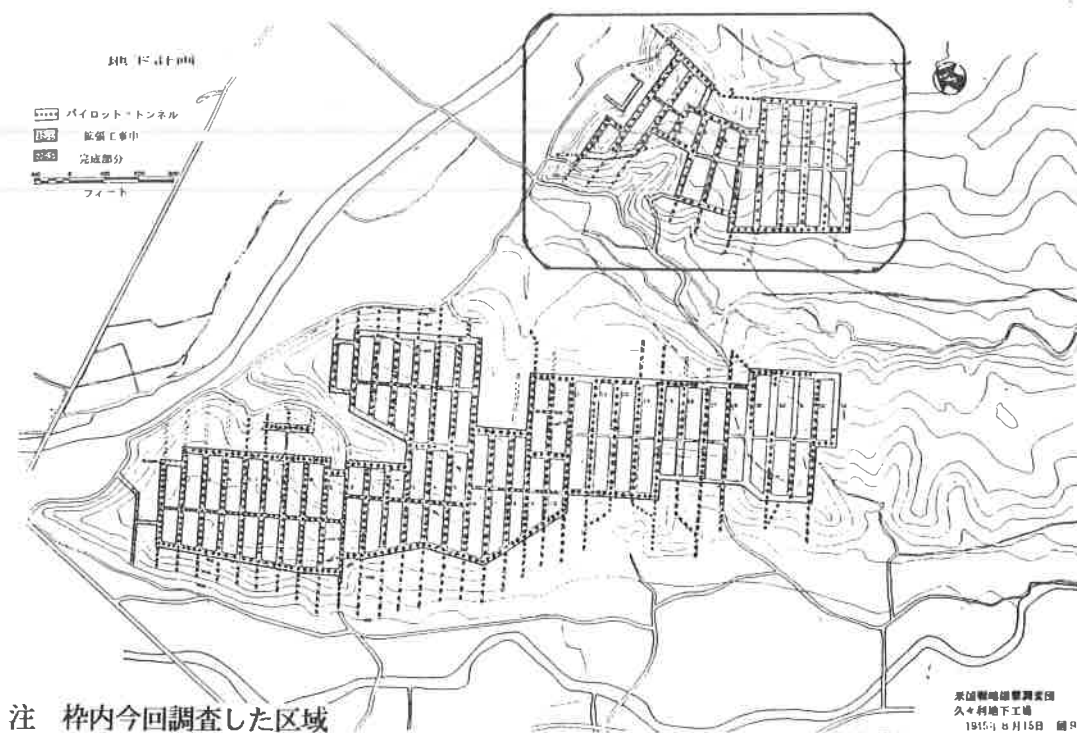
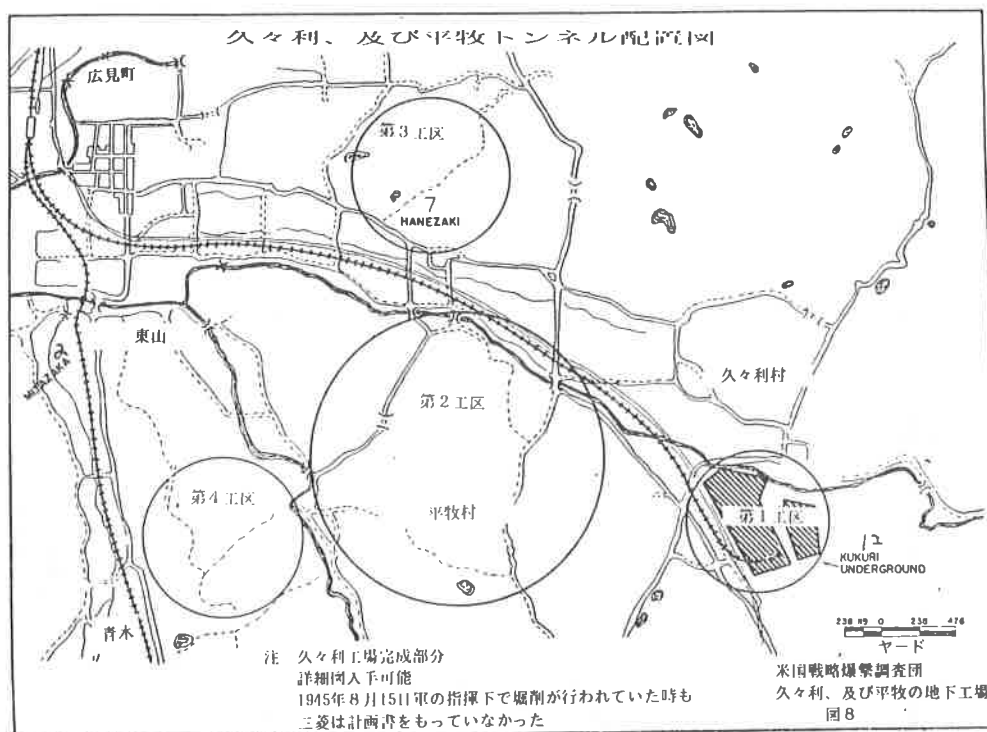
現地調査 報告

はじめに

8月26日、岐阜県可児市久々利の地下軍需工場跡の現地調査には約百五十名が参加しました。10グループの調査班を作り、それぞれ割り当てられた区域を測量しました。あまりの規模の大きさのために一九四六年、米国戦略爆撃調査団が調査して以来、誰も実測してみようとしなかったところです。今回は未完成部分のところだけですが、その全容が明らかになったことは少なからず意味があったと思います。

最近、地下壕の近くにある東明小学校で朝鮮人学童五百名の学籍簿が発見されたこともあり、調査班を作れなかったことは残念ですが、名簿の公開等、今後の調査が待たれるところです。

そのあと、岐阜県瑞浪市明世の地下軍需工場跡へ行き、「日中不再戦」の碑が建っている戸狩山の上で、加藤武志先生から中国人強制連行・強制労働の実態について報告していただきました。

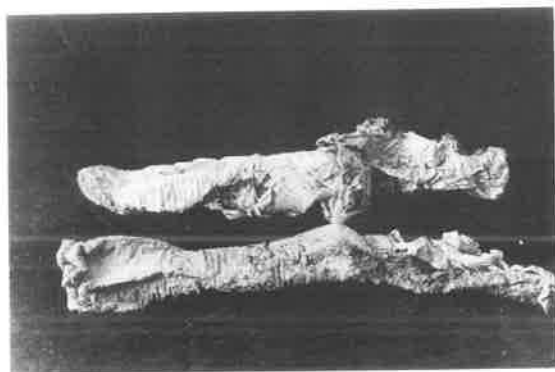




現地調査に向かう一行



この山の下にトンネルが縦横に掘られている



壕内で発見されたダイナマイト

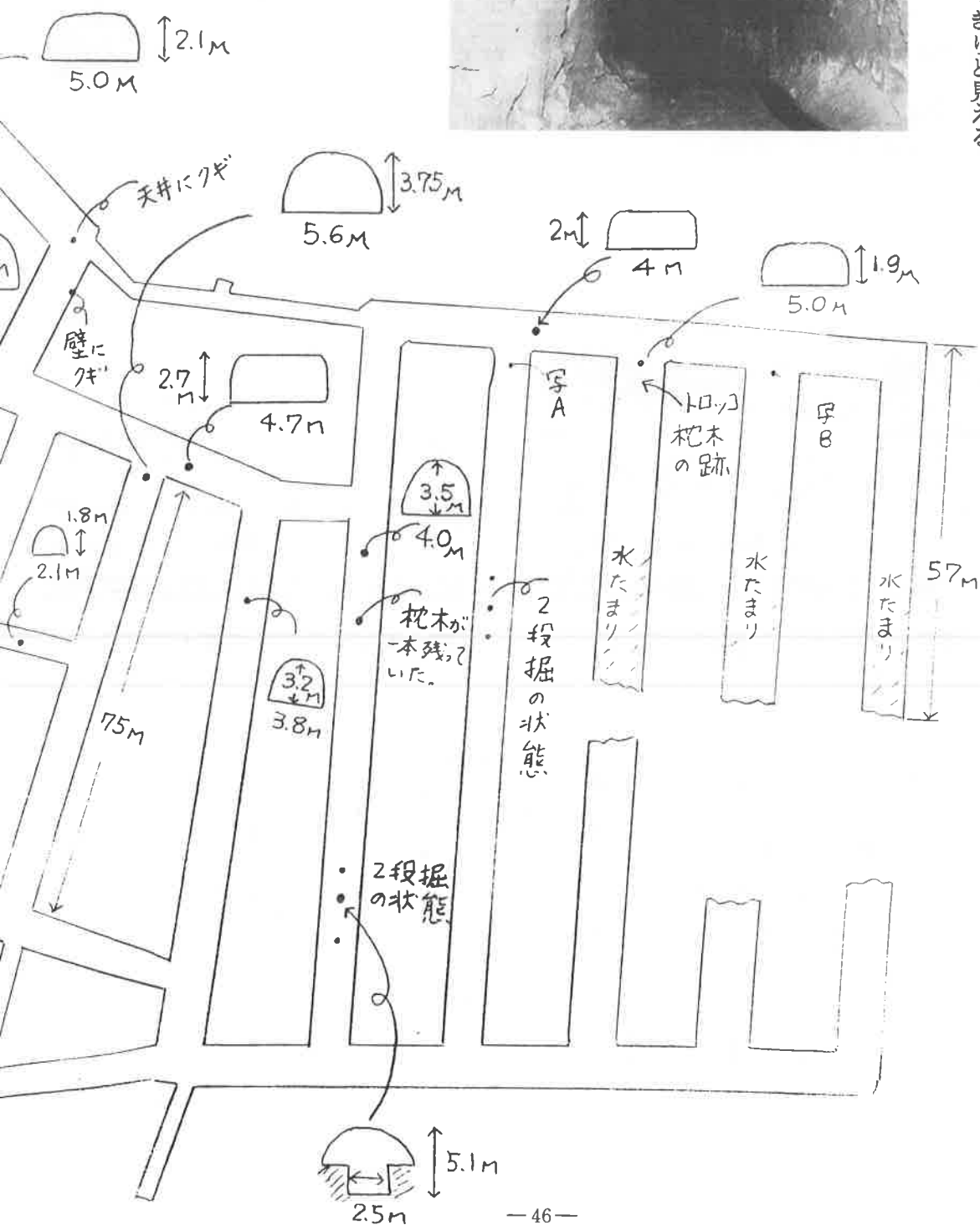


壁一面にツルハシの跡が見える

久々利
三菱発動機第4エンジン製作所の疎開工場。名古屋より北へ32^里、広見町より南西へ4・8^里の丘陵地帯にある。地元住民の記録が残っており、それによると一九四四年十二月下旬地下軍需工場と決定。測量開始。工事人夫二千名、家族合わせて六千名が割り当てられる。その後も多くは労働者が連れてこられたと思われる。記録に「地下工事作業は9分通り朝鮮人民であった」と書かれている。飯場はたんぼなどに17、その他「村一帯一戸余さず宿舍割り当て、寺院、分校、弘坊堂、集会場等、建物は皆宿舍なり」とある。

ある証言者は、「二人一組で一日24時間2交替でしたので仕事は非常にきつかったです」と語っている。

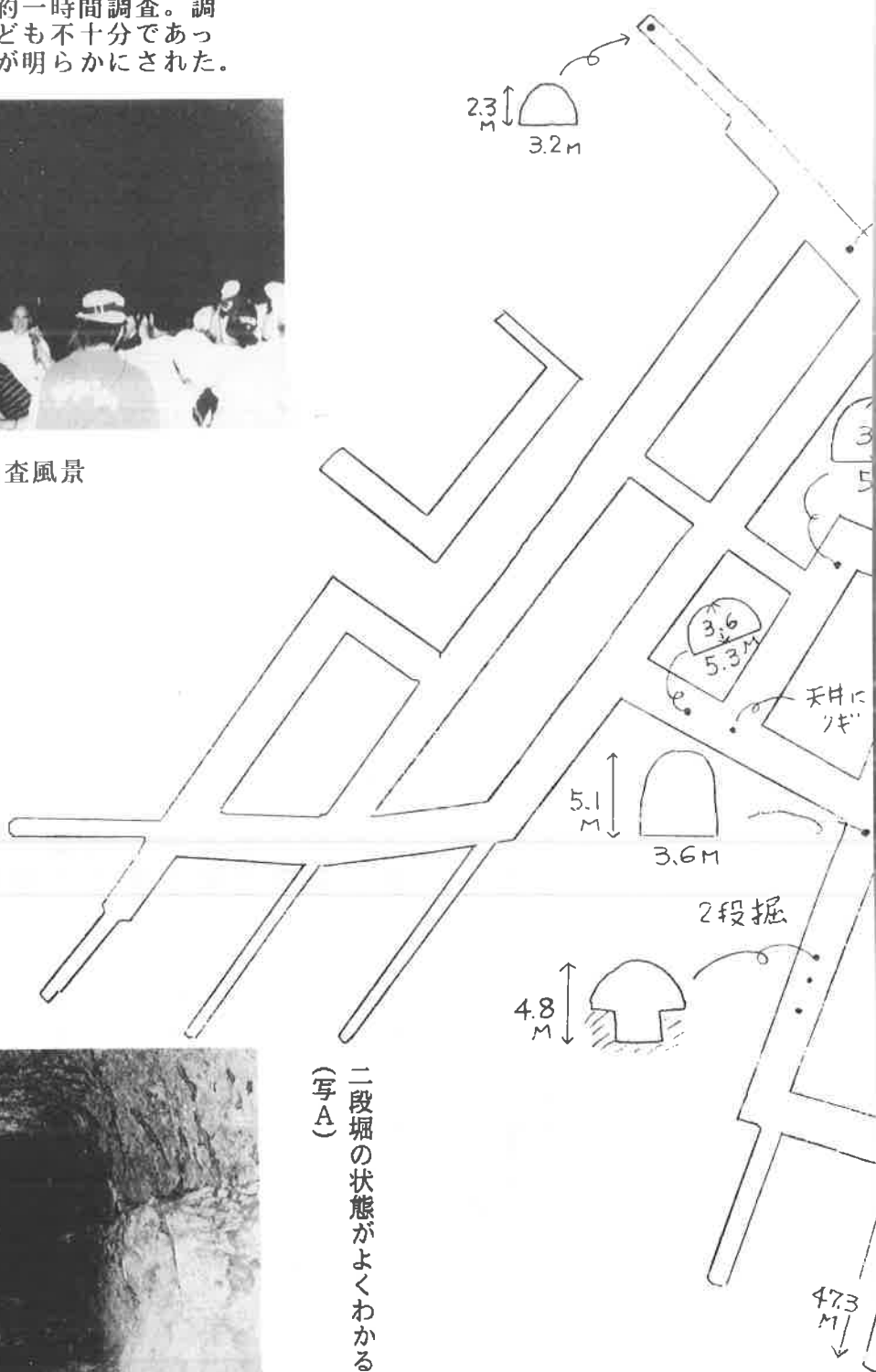
枕木の跡がくっきりと見える
(写B)



10班に分けて、約一時間調査。調査器具、時間なども不十分であったが、ほぼ全容が明らかにされた。



壕内調査風景



(写A)
二段堀の状態がよくわかる

戸狩山地下工場図

資料提供 山田氏



瑞浪

川崎航空機の疎開工場。国鉄中央線で名古屋から一時間余り。瑞浪駅で下車し、国道19号線に沿って西へ15分ほど歩くと戸狩の家並みが続き、そこを少し北へ登ると戸狩山が見えてくる。化石がこの一帯でよく出ることから通称「化石山」とも呼ばれている。ここも久々利地下工場と同じ地質。掘りやすく崩れにくい。

工事は間組が請負い、45年1月頃着工し4年間の計画で日吉まで掘りぬくような大計画だったという話だが、機械も搬入されずに敗戦、または解放を迎える。

中国人労働者は八路軍の捕虜三百三十名。朝鮮人労働者数はわからず。聞き取りから推測すると千名以上は確実。一番多かったときは四千名いたと証言した人もいた。

特に中国人労働者の食事はひどく、餓死による死者など多数。戸狩山の上に中国人の慰霊碑が建っている。朝鮮人については何もわかっていない。



説明をする加藤武志先生



戸狩山地下工場全景



「日中不再戦の誓い」の碑



化石の洞くつ 懐古洞

この洞くつは第二次世界大戦の終わりのころ(1945)工事途中であった地下工場の跡です。当時の混乱ぶりを物語るかのように曲がりくねっています。

幸い、天井に多くの化石を残してくれました。化石の種類は洞くつ内の説明板を見てください。この地層は“戸狩層”とよばれ、1500万年ほど前に10メートルより浅い砂底の海で堆積したものです。

このカンパンには地下壕建設のために働らかされた朝鮮人・中国人の記述は一切ない。



化石見学用に整備された地下工場の一部

感想文

鄭鴻永

この度の集会在いろいろな意味で画期的であったということは、私一人ではなく集まった人たちの一致した感想ではないかと思う。熱気を肌で感じる雰囲気。会場を埋めつくした参加者達の真剣なまなざし。進行上やむなく限られた短い時間ではあったが、報告者一人一人の熱い思いを込めた発言が私の胸を強く打った。

集会の内容もさることながら、立場や考えの違いを越えて、全国各地から様々な人たちが初めて一堂に会したという事実もまた、大きな意味を持つのではないだろうか。活動を阻む厚い壁にぶつかった苦い経験から、個々バラバラでは前進しないことを誰もが思いながらも、どうしたわけか実際には情報の交換や連帯、連携が極めて難しく、なかなかうまくいかないのが現実なのである。

集会はまた私個人にとっても30年来の旧友との十数年ぶりの思いがけない再会の場でもあった。富山や石川、その他の地方へ行ったときずいぶんお世話になった人達とも久しぶりに再会できたのが何よりも嬉しかった。固く心に誓って長らく守っていたドクターストップの禁を破って飲みほした缶ビールの数もよく覚えていない。翌日は二日酔いと睡眠不足が重なってさすがにかなりこたえた。

久々利の地下工場へ行ったのは今度で三度目である。三

年ばかり前にNHKテレビの記者から金達洙さんのことを聞き、電話で連絡して、案内してもらったのが最初であった。二回目は「西宮の戦争を記録する会」が主催したトンネル見学バスツアーの時だったが、頼まれれば断り切れない性格らしく、このときも風邪で寝込んでいたところを瑞浪の旅館まで駆け付けて案内を引き受けてくれた。

始めてのときは何よりもその巨大さにまず度肝を抜かされたものだったが、この度は参加者全員が調査することだったので事務局からもらった地図をたよりに分担された区間を丹念に観察。クツキリと残っていたトロツコレールの跡や朝鮮人達の血のにじむ強制労働を物語る生々しいツルハシの跡を確かめることが出来た。建設工事については地元小学校に残っていた「朝鮮人児童五百人の学籍簿発見」を報じた前日夕刊の新聞記事だけを見ても、どれだけ多くの朝鮮人が集めてこられたか容易に想像がつくのである。

一大統領の来日がキッカケで、日本政府自らが音頭を取って「名簿探し」から始まった朝鮮人強制連行・強制労働問題。バスに乗り遅れまいとするかのように競って連日のように報道したマスコミも、調査の終了を宣言した労働省発表の後にはまるで一つの「ブーム」が去ったようである。

だが、私達の活動は今度の集会を一つの大きな転機として新たなスタート点に立ったばかり。再会を約して別れた仲間達を一年後に兵庫県に迎えようとしている。名古屋の

人たちが初めて敷いたレールを真つすぐにのぼして抜けて行けるかどうか。心配しても何も始まらない。たとえ牛歩のようであっても前へ進むのみである。

嶋田 実

私が初めて久々利の地下トンネルに行ったのは、この「強制連行・強制労働を考える全国交流集会」の三か月前のことです。岐阜の朝鮮学校の生徒が地下トンネルを見学するということで「ピットムの会」のメンバーと一緒に行ったときのことでした。

初めて久々利の地下トンネルに入ったときの感想は、その規模の大きさや生々しさに圧倒されたということももちろんあったが、この地下トンネルに対する感じ方が朝鮮人と日本人である自分とは全然ちがうんだなということでした。自分のアボジが実際にこういうところで働らかされていたという思いと、朝鮮人をそこで働かせていた側の人間としての気持ちが違うのは当然であるが、このトンネルに入ったとき、そのことが頭の中だけでなく身体全体で感じることできたような気がしました。

今回の全国交流集会の現地調査では、第二班の皆さんの道案内をしました。道を知っているだけで他の知識はほとんどなく、質問されてもたいした解答もできず申し訳ないやら、情けないやらでした。実際に息のつまるような真

っ暗闇のトンネルの中に身を置くことで、皆さんも今までとは違った見方や感じ方ができるようになったのだと思います。ただ、今自分がやっている活動は単なる歴史の調査や地下トンネルの保存運動ではないと言う事だけは強調しておきたいと思っています。この活動も自分が今までやってきた指紋押捺拒否の運動や三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者の追悼碑を建立する会の運動と同じように日本社会、日本人の中にある朝鮮人差別を問題としたものなのです。

■8月25日の感想

全国のあちこちでコツコツと困難な仕事をしておられる人たちを知ったことだけでも有意義であった。とりかえしのつかないことだけど、こういうかたちで知った人たちの仕事に連なっていきたいと思う。

(愛知)

あれだけ多くの団体・個人の参加があるとは思っていませんでした。新しく運動に関わった人(私達もそうですが)、若い層の人々の参加も多く、今後ともおおいに期待を寄せて参加していきたいと思います。ただ今回のような交流中心の集会だけでは、どうしてももっとつっこんで聞きたい、話してみたいことが満たされずになってしまいます。今後はテーマをしぼったセミナー形式のものもやったらいいですね。

(富山)

全国いたるところからの活動家たちの報告を受け、戦時中の朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働にこれほどまでに熱意と意欲をもって活動しておられる姿に感動しました。

(愛知)

最初の全国交流集会といってもどの程度の規模と参加者が多少不安でした。予想以上に全国各地から参加者があり少々驚いた程です。また強制連行の実態調査について、地

下壕調査について、各地で調査が進められていることに対して力強く思いました。

(大阪)

全国の様々な地域の様々な運動の在り方を学ぶことが出来て大変意義深く思いました。紹介された運動体の一つ一つがどれをとっても大きな課題を担っており、私達の運動を見直す大きな力となりました。自らの足元を掘り起こすことでまさにインターナショナルな出会いとなった。というのが現在の思いです。また国家、自治体、企業に対する運動についても多くを学ばせていただきました。

(山梨)

たいへん良い集会だったと思いました。ただもう少し聞きたい所がありましたから、各地の報告をもう少し長くしたらどうだったでしょうか。

(岐阜)

■8月26日の感想

久々利地下工場跡における坑道の切り端に装填されておき去られたままのダイナマイト、これを見た時、一挙に45年前の時空が現前した思いです。瑞浪の日中不再戦の碑は私に関わる相模湖ダムの運動に一つの指針を与えてくれました。

(山梨)

このようなトンネルの現地は以前、釜戸を見学し二度目です。釜戸でも驚きましたが、今回はその規模といい、人の多さ等一層驚きました。ひんやりした洞のなかで、まだ僅か45年前に人間の手でこの手作業が行われ、その人々の気持ちを思ったとき、何とも言えない思いがしました。くやしかったに違い在りません。祖国を思ったでしょう、家族も思ったことでしょう。改めて戦争の愚かさを痛感しました。

(岐阜)

事実を目の前にして、驚きと虚しさやるせなさと、何とも言えない感情が胸を熱くしました。

(岐阜)

久々利ではトンネルの大きさにビックリしました。遠方で行く機会のない、久々利・瑞浪へ行けて「百聞は一見にしかず」を実践できました。

(兵庫)

東京・八王子市の浅川の地下壕と比較できてたいへん有意義でした。ただ掘り方、壕の状態など見るべきポイントを示して貰えるとありがたかったです。

(東京)

予想外の規模の大きさだった。それだけに強制された労働の苛酷さが想像された。

(愛知)

全国にある地下軍需工場の内、主要な箇所を是非保存し、

できたらトンネル内に簡単な照明工事をし、二度とこのようなことがあってはならない、メモリアル館設立に向かうことを希望します。

——朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流会への呼び掛け——

20世紀前半の半世紀の間に、数100万人の朝鮮人が故郷を離れて、中国東北部、日本、シベリア、サハリンにむかいました。そのうち数100万の人々は、1930年代末から1945年までの間に日本とサハリン、南方等に連行され、鉱山やダム工事等で酷使されました。

また、同時期に約5万人の中国人が華北勞工協会等を通じて強制連行され、そのうち7千人の人々が命を奪われました。

自分の意志で故郷を離れた朝鮮人の多くも又、朝鮮が日本に侵略されなければ、故郷を遠く離れて異郷にむかうことはなかったでしょう。

日本に渡った朝鮮人のうち、1945年8月15日までに炭坑、ダム工事、トンネル工事などで何人が死んだのか、日本の各地で何人が日本人に殺されたか。10年後に21世紀を迎えようとしている今もなお、20世紀の前半期に日本で命を奪われた朝鮮人の数は明らかになっていません。数がわからないという事は、1923年9月に関東で殺された6千人とも1万人ともいわれる人々を含め、いまなお、日本の各地域に、故郷に帰りつくことのできなかった朝鮮人の心と体が埋められています。

日本の経済基礎構造である鉄道、道路、ダム、港湾等の建設を最底辺で担わされたのは朝鮮人や中国人労働者でした。日本の敗戦後の経済成長はその基礎構造を基盤に、朝鮮戦争時の特需を契機にして成り立っているものです。

にもかかわらず、日本政府も大企業も過去の侵略の歴史を隠し続けています。アジア侵略戦争時に日本兵、軍属として「徴兵」「徴用」された朝鮮人のうち、約12万人が行方不明になっていますが、厚生省は、その名簿を所有していながら公開を拒否しています。三菱重工、鹿島建設、間組・・・は数知れぬ朝鮮人、中国人を酷使、虐殺しておきながらその事実を隠し、何ら責任をとろうとしていません。

これまで、各地で在日朝鮮人、中国人および心ある日本人らによって真実の一端が明らかにされてきました、しかし朝鮮人労働者のことは殆ど明らかにされていません。

孤立した調査では限界があり、又、侵略の証拠を隠そうとする日本政府当局や大企業にしっかりと対抗していくこともできません。

これまで、日本の各地域で、個人、グループで調査、研究をすすめてきた人たち、そして、これから始めようとする人達が連絡を取り合っていくことが大切だと思います。

互いに連絡を取り合い、その連絡網を広げ、その網の目を緻密にしていくことによって個々の調査、研究が深まり、そして各地の調査、研究が深まるならば、さらに網は強いものとなって、侵略の歴史的責任を回避しようとするものを包囲していく事ができると思います。

この連絡網を、さしあたり強制連行・強制労働を考える全国交流会と呼ぼうと思います。各種鉱山、発電所、鉄道や道路のトンネル、地下工場・・・朝鮮人や中国人労働者が酷使され、健康を奪われ、事故や病気で命を失った場所の多くは地下の暗やみでした。

そして今もなお、日本の各地の地下に埋められている朝鮮人や中国人労働者が少なくありません。それらの朝鮮人や中国人の所にたどりつきたいと思います。在日朝鮮人、在日中国人にとって、生きて故郷に帰ることのできなかった同胞の埋められている地域こそはなぜ自分が日本にいるのかという歴史的な理由をはっきりさせる場所だと思います。

日本人にとっては、その地域は、自らの侵略の歴史を明らかにしようとする時には、必ずたどりつくべき原点なのだと思います。

たどりつくべき所にたどりつくまで、調査と研究の領域で、私たちは、民衆の歴史を掘りすすめていく。そのような思いで今後の全国ネットワーク作りを展望しながら、まずは全国交流会をもとうではありませんか。

報日 90.8.26



各地から報告続々

強制連行を
考える集会
実態の解明訴える

二十五日、名古屋市熱田区の区役所ホールで開かれた「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会」は、調査活動を続ける各地の住民グループからの熱心な報告に続き、政府の調査旅行などを求める旨相あての要請文を採択した。

冒頭、集会を呼びかけた名古屋のグループ「ピットムの会」の本橋正男さん（四〇）が「日本が考えることのなかった侵略の歴史を強制連行の事実を明らかにしていかなければならない」とあいさつ。六都府県のグループが報告をした。

「兵庫朝鮮関係研究会」の洪祥進（ホン・サンジン）さんは、全国で地下工場に連行された朝鮮人労働者について説明。「根が深く、金銭をまとめるのは大変だが、十年でも二

「三重県本で虐殺された朝鮮人労働者の追悼碑を建立する会」の金静美（キム・ジョンミ）さんは、「虐殺された朝鮮人の死を追及し、日本の侵略で殺された大勢のアジア人の死を考えたい」と訴えた。

この問題に詳しい田中宏・愛知県立大学教授は「アジアへの加害責任を問う声が強まってきている。今年初めてこうした全国集会所が開かれたのは喜ばしかった」と述べ、さらに十七人の活動報告が続いた。

参加者の中にはアメリカ人留学生の姿も見られ、強制連行問題で論文を書く準備を進めているというドン・ミスさん（三〇）は、「これほど全国でいろいろな人たちが調べていると知って感激しました」と話していた。

朝鮮・中国人

強制労働の「解明」を

名古屋
300人で初の全国集会

戦前、戦時中の朝鮮人・中国人強制連行の実態を調べている全国の市民団体、個人が初めて一堂に会した「第一回朝鮮人・中国人強制労働を考える全国交流集会」が二十五日、名古屋市熱田区役所ホールで開かれた。

名古屋の市民グループ「ピットム（血と汗）の会」の呼び掛けに十一都道府県の二百

十五年間、隠されぬがめられたきた強制連行の歴史を明らかにする以外に、在日朝鮮人・中国人との共生も日本の国際化もあり得ない」とあいさつ。続いて「瀬戸地下軍需工場跡を保存する会」（愛知県瀬戸市）や「兵庫朝鮮関係研

究会（兵庫県）などグループが報告に立ち、太平洋戦争末期、全国三千所以上に造られた地下の軍事施設、軍需工場の掘削工事に強制動員された朝鮮人・中国人労働者の労働実態などを紹介した。

また、大正末期に三重県熊野市本町で朝鮮労働者二人が虐殺された「本町事件」を調べている在日朝鮮人二世の金静美さん（四〇）は「強制連行の歴史を明らかにすること、私たちのアボジ（父）や

半数が全国最大規模の岐阜県可児市や瑞浪市の地下軍需工場を見学する。

首相に謝罪と補償を要請

名古屋 強制連行調査で全国集会



名古屋で開かれた朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国集会—2511

戦時中の朝鮮人や中国人の強制連行・強制労働などの調査を進めている各地の在日韓・朝鮮人や日本人のグループが二十五日午後、名古屋市熱田区の熱田区役所ホールで

初の全国交流集会を開いた。強制労働の現場や保存状況、名簿捜しなどの取り組みについて情報交換するとともに、集会の最後に海部内相に対して「政府は真剣に調査

し、強制連行者に対し公式謝罪と補償をすべきだ」との要請文を採択した。東海地方で地下軍需工場などの調査に取り組んでいる名古屋市の「ピタム(血と汗)

の会」が呼び掛け、「タチノ戦跡を残す会」(大阪府高槻市)や「中国人強制連行を考える会」(東京)など三十団体、約三百人が参加。「ピタムの会」の本橋正男さん(53)が戦後四十五年、隠れいされゆめめられた強制

連行の事実を正していく以外に、在日朝鮮人・中国人との共生も日本の国際化もあり得ない」とあいさつ。続いて六団体が各地のダムや地下工場建設の際の強制労働調査や保存活動について報告した。

「兵庫朝鮮関係研究会」は朝鮮人強制連行者名簿の公開要求活動について説明。同研究会によると、昭和二十一年六月、連合国軍総司令部(GHQ)の指令で厚生省が全国各地の関係工場、事業所で朝鮮人、中国人労働者の数や名簿などを調査したという。

今月七日、政府は十六都道府県分として朝鮮人労働者約七万九千人の名簿を発表したが、同研究会は「これは一部で、政府は二十一年に調査した全体的な数字を把握していないはずだ」と指摘。自治体や企業に名簿公開を要求する必要がある、と呼び掛けた。

「ピタムの会」の金唱律さん(50)は「集会を開いたこと自体で成功。まとまることで、いろいろな要求の声も大きくなる」と話していた。二十六日は全国最大規模の岐阜県可児市の地下軍需工場跡などを見学、地元の高老から話を聴く。

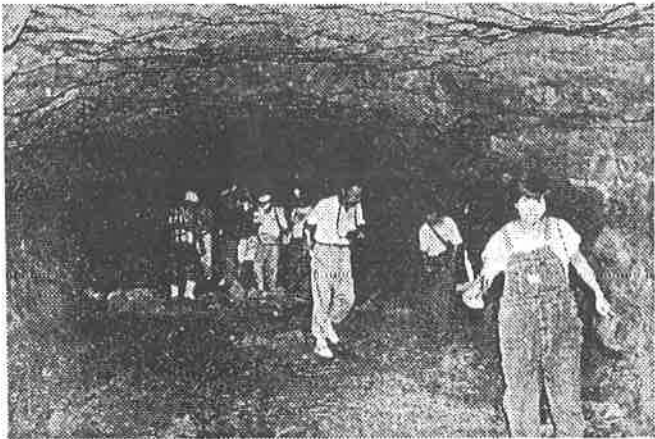
共同通信発の記事

岐阜新聞、中国新聞(広島)、佐賀新聞、伊勢新聞、河北新報(宮城)、サンケイ、山陰中央新聞(松江)、日本海新聞(鳥取)、山陽新聞(岡山)、日経、信濃毎日(長野)、京都新聞等に様々な形で掲載

8/27

戦争の傷跡「地下軍需工場」調査

毎日 190
「強制労働考へ 朝鮮人らの苦勞思い
る集會」参加者



可児市久々利の地下軍需工場跡を調査する参加者たち=26日午前11時

名古屋で開かれた「第一回会」の参加者らによる岐阜県朝鮮人・中国人強制連行・強内の地下軍需工場跡の現地調査労働を考へる全国交流集會が二十六日行われた。参加

人・中国人の苦勞をしるんでいた。

参加者らは三台のバスと十数台のマイカーに分乗して可児市久々利（くくり）にある三菱航空機（現三菱重工工業本工場・名古屋）の強制労働工場跡を訪れた。地下工場跡は東西二つの区域に分かれ、それぞれ小高い岩山をくり抜いて幅五、高さ五、三層のトンネルが網の目のように張りめぐらされている。一九四四年末から測量開始、一九四五年六月に機械が運び込まれ、試運転は行われたものの本格生産には至らず、戦後は地元住民らがワドの栽培や倉庫に使い、一部は市道のトンネルにもなっている。

この日は東部の小さい区域を調査し、九つの班に分かれた参加者は懐中電灯やロウソクを手にトンネルに入り、地下工場の長さや幅、高さなどを実測、地図上に記入していた。また木のくいやツルハシの削りあとを見つけては写真におさめていた。このあと瑞浪市明世町の川崎航空機（現川崎重工工業、本工場・各務原市）の部品工場跡を訪れた。強制労働で亡くなった中国人捕虜を慰霊する戦争の跡があるなんて。しっ山頂の碑の前で、地元で調査を続ける元高校教師、加藤武と口々に話していた。

さんへもの話を聞いたあと、現在は同市の化石博物館の一部となっているトンネルを見学した。

戦時に強制労働の地下工場跡を見学

可児、市民団体など

戦争中の朝鮮人・中国人強制連行の実態を調べている人たちが二十六日、岐阜県可児市久々利にある戦時中に朝鮮人労働者らによって掘られた地下軍需工場跡を見学した。

参加したのは二十五日に名古屋で開かれた「第一回朝鮮人・中国人強制労働考へる全国集會」に出席した全国の市民団体などの約百五十人。

参加者たちは懐中電灯やろうそくを手にトンネル内を見て回り、高さや幅などを調査。人間の手にこんな大きなものが短期間で完成したこと

強制連行の跡 地下工場見学

岐阜県市民団体ら

太平洋戦争末期、朝鮮人や中国人らが追らされた、とされる岐阜県内の二カ所の地下軍需工場跡の調査、見学会が二十六日あった。

名古屋で二十五日、「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考へる全国交流集會」を開いたメンバー約百五十人が参加した。

調査、見学したのは、全長約七キロあり、現存する最大規模の工場跡といわれる可児市久々利と瑞浪市明世町のトンネル。これらのトンネルは米軍の空襲を避けるため全国的に計画され、市民グループの調査では、東海地方でも少なくとも十九所建設されたという。

朝日 90.8/27

住所録

○「じやま工芸の会」

名古屋市千種区池上町2-7-1 本橋正男方

○札幌郷土を掘る会

札幌市東区東苗穂7条3-7-16
事務局 小松 豊

○半田空襲と戦争を記録する会

半田市花園町3-12-12 佐藤方

○豊橋日中友好協会

豊橋郵便局私書箱69号

○アジアフレンド

大阪市西成区萩之茶屋2-8-9 旅路の里氣付

○松代大本営を考える会

東京都新宿区市谷台町1-7-4 山根昌子方

○姫路朝鮮問題研究会

姫路市飾磨区恵美酒600 姫路市教育会館内

○ウリ文化研究所

大阪市生野区中川西2-6-10 KCC会館4F

○在日朝鮮人運動史研究会

東京都調布市深大寺元町1-24-3

○ウトロ町内会・ウトロ土地対策委員会

宇治市伊勢田町ウトロ51

○亀島山地下工場を語りつぐ会

岡山県倉敷市水島南春日町2-3-1
倉敷医療生活協同組合内

○瀬戸地下軍需工場跡を保存する会

愛知県瀬戸市追分町64-1
瀬戸市職員労働組合内

○高槻「タチソ」戦跡保存の会

大阪府高槻市殿町10-4 宇津木文化研究所

○中国人強制連行を考える会

東京都港区西新橋1-8-7
藤野ビル2F新橋法律事務所内

○花岡蜂起!!問題にこだわる会

大阪市西成区津守1-13-28 ポップ気付

○6・30花岡の会

広島市西区小川内1-13-3 広島連帯労組気付

○三重県朝鮮人史研究会

三重県津市上浜町1-18 上浜荘1号 岡坂気付

○あるすの会

名古屋市東区葵2-6-29 狩浦 正義方

○外登法問題と人権を考える会

大阪市中央区玉造2-24-22 大阪カトリック神学院内

○神戸学生・青年センター

神戸市灘区山田町3-1-1

○三重県木本で虐殺された李基允・裴相度の追悼碑を建立する会

三重県名張市百合が丘西2-103 斎藤方

○兵庫朝鮮関係研究会

尼崎市次屋1-16-5 除根植方

○アジア、太平洋地域の戦争犠牲者に思いを馳せ心に刻む高山集会

高山市総和町2丁目 不遠寺内
高山集会実行委員会

○在日韓国・朝鮮人の人権を考える会 三重県上野市下郡53-3 竹本 昇方

○ノーマア南京の会 名古屋市瑞穂区高田町3-28 愛知県立大学 田中宏方

○相模湖ダムの歴史を記録する会 山梨県都留郡上野原町上野原1674
セジュール山口103号 田中造雅方

○戦争の記録を残す西宮市民の会 西宮市津門呉羽町9-30 宮林 彦吉方

○愛知県下の朝鮮人強制連行歴史調査班 名古屋市千種区希望ヶ丘1-5-7
(日朝協会愛知県連合会内) 高橋 信

○指紋押捺を考える八王子の会 八王子市めじろ台2-1 A404 豊島方

○寺田貞治 横浜市港北区4-1-1

○一条三子 埼玉県東松山市松本町1-1-1-63

資料④

都道府県別参加者数

計	香川	和歌山	京都	三重	静岡	富山	埼玉	北海道
	1	1	7	18	2	3	3	1
	福岡	岡山	大阪	滋賀	愛知	石川	山梨	東京
	1	2	35	5	99	2	2	28
		広島	兵庫	奈良	岐阜	福井	長野	神奈川
247名		3	17	2	5	3	4	3

注 マスコミ関係は含まず

集△云日程

八月二五日

午後一時 全体集会

名古屋市熱田区役所ホール

午後六時 分科会

名古屋働く人の家

八月二五日

現地調査

岐阜県可児市久々利地下工場

岐阜県瑞浪市明世地下工場

編集後記

○第二回「全国交流集会」は兵庫県西宮で行います。日時は一九九一年七月二十七日（土）、二十八日（日）、の両日。場所は未定。連絡先は神戸学生・青年センターが引き受けることになりました。西宮には川西航空機の疎開工場跡があり、当日そこを見学する予定になっています。再び多くの人々にお会いできることを楽しみにしています。

○本書の編集にさいし多くの方々の協力を頂きました。特にテープ起こしを引き受けて下さった西成子さん、写真を提供してくださった「ミレ」編集部の呉実さんには大変お世話になりました。ここに厚くお礼申し上げます。

第一回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働
を考える全国交流集会 報告集

一九九〇年十二月 発行
定価 五百円

編集・発行 全国交流集会実行委員会
連絡先 ビラギム ⅡⅢの会 本橋 正男

愛知県名古屋市中種区池上町

二一七一
☎〇五二一七八一―四六九〇

神戸学生・青年センター

飛田 雄一

兵庫県神戸市灘区山田町

三一―
☎〇七八一八五一―二七六〇

印刷所

名高社

名古屋市中村区剣町二〇八